

南越前町学校施設等長寿命化計画

令和3年3月

南越前町 教育委員会

南越前町学校施設等長寿命化計画 目次

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
1. 計画の背景	1
2. 計画の目的	1
3. 計画の位置づけ	2
4. 計画期間	2
5. 対象施設	2
第2章 学校施設の実態	3
1. 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	3
2. 学校施設の老朽化状況の実態	13
第3章 学校施設の目指すべき姿	31
第4章 学校施設整備の基本的な方針等	33
1. 学校施設の規模・配置計画等の方針	33
2. 改修等の基本的な方針	34
第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	37
1. 改修等の整備水準	37
2. 維持管理の項目・手法等	40
第6章 長寿命化の実施計画	41
1. 改修等の優先順位付けと実施計画	41
2. 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果	46
第7章 長寿命化計画の継続的運用方針	47
1. 情報基盤の整備と活用	47
2. 推進体制等の整備	47
3. フォローアップ	47

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1. 計画の背景

人々の生活や社会経済活動は、道路・橋梁・鉄道等の産業基盤や上下水道・公園・学校等の生活基盤、また、都市や農山村を形成する様々なインフラによって支えられています。

これらのインフラは、全国的に高度経済成長期以降に整備されたものが多く、今後、一斉に更新の時期を迎えようとしています。

このような中、国は、平成25年(2013年)11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性を打ち出し、地方公共団体においてもこの計画に基づき、インフラ長寿命化計画(公共施設等総合管理計画)、個別施設毎の長寿命化計画(個別施設計画)を策定することとされました。

上記を背景に、南越前町では、平成29年(2017年)3月に、今後40年間の公共施設等の管理に対して基本的な方針を定めた「南越前町公共施設等総合管理計画」を策定しました。

本計画は、南越前町公共施設等総合管理計画の方針を踏まえつつ、公共施設の中でも多くの割合を占める学校施設(小学校、中学校)について、施設全体の状況を把握し、中長期的に整備を行うことにより、管理運営の適正化と財政負担の軽減・平準化を図るものです。

2. 計画の目的

本町が保有する公共施設等(建築物)の延床面積は約15万6千㎡となっており、このうち、学校施設は全体の約24%を占めています。

また、学校施設の多くは昭和50年代から昭和60年代にかけて建設されたもので、全体の約5割が建築後40年を経過するなど老朽化が進みつつあり、学校施設の維持管理及び更新が今後の財政に与える影響は非常に大きいと考えられます。

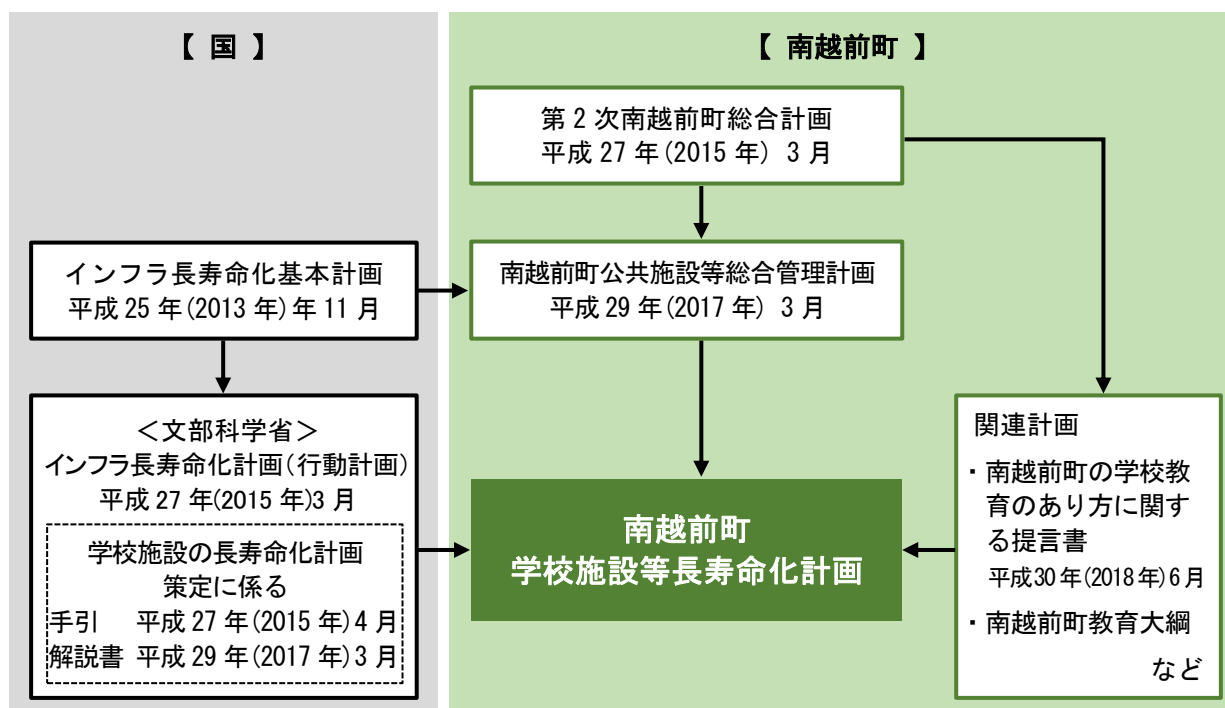
一方、学校施設に対するニーズは多様化しており、多様な学習内容や形態への対応、学習空間の快適化、防災対策、環境負荷の低減など、さまざまな配慮が求められています。

そこで、厳しい財政状況の中、学校施設に求められる機能・性能を確実に確保するため、従来の事後保全型から予防保全型への転換による学校施設の長寿命化に取り組み、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図ることを目的に、南越前町学校施設等長寿命化計画を策定するものとします。

3. 計画の位置づけ

国が定める計画や学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き・解説書等に基づき、本町が定める上位計画である「第2次南越前町総合計画」（平成27年（2015年）3月）や南越前町公共施設等総合管理計画、その他関連計画等との整合を図りつつ計画を策定します。

図 南越前町学校施設等長寿命化計画の位置づけ



4. 計画期間

本計画の期間は、令和3年度（2021年度）から令和43年度（2061年度）までの40年間の計画とし、概ね5年毎に見直しを行うものとします。なお、児童生徒数や著しい社会経済情勢の変化、国の補助制度の動向等により早急な対応が必要な場合は、随時見直すものとします。

5. 対象施設

小学校 4校	南条小学校 湯尾小学校 今庄小学校 河野小学校
中学校 3校	南条中学校 今庄中学校 河野中学校
学校給食センター 1箇所	河野給食センター

第2章 学校施設の実態

1. 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 学校施設を取り巻く状況

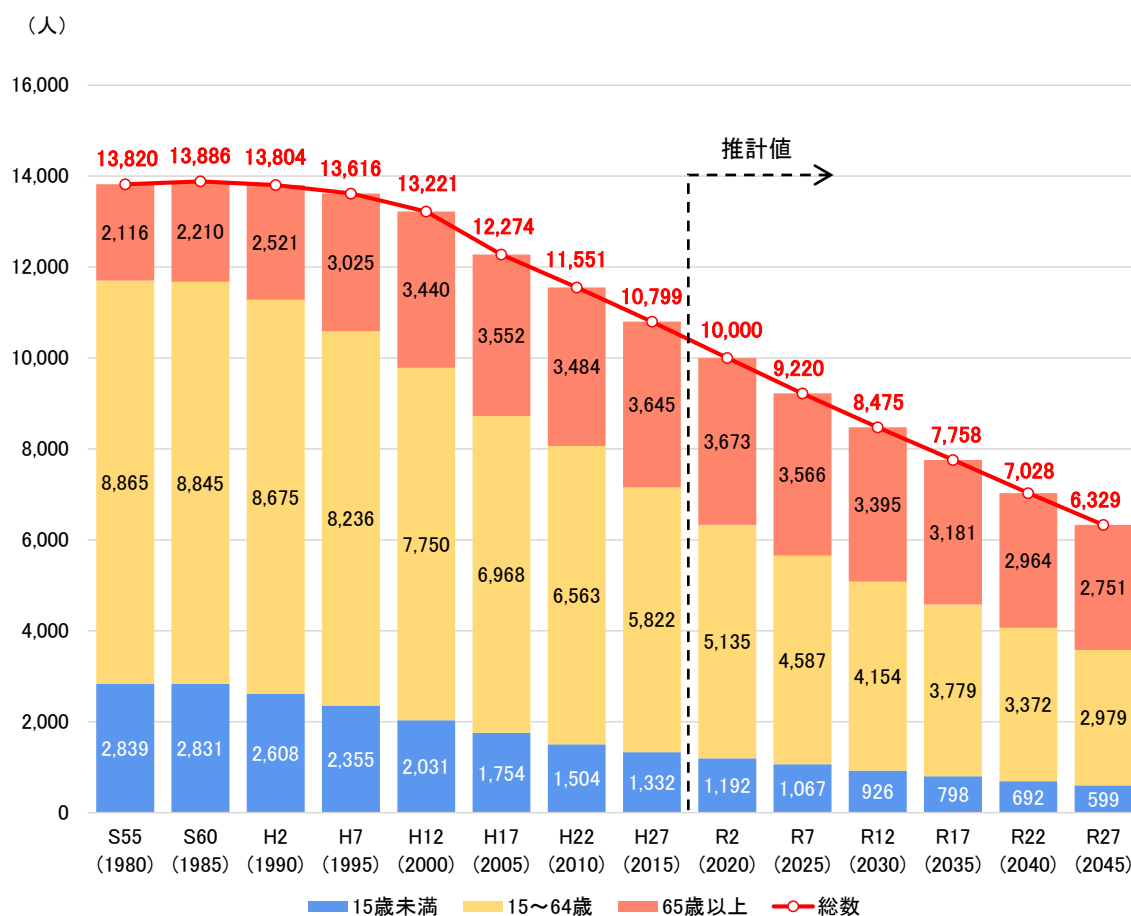
① 人口推移と今後の見通し

本町の人口は昭和60年(1985年)にピークを迎え、その後、減少傾向に転じており、近年、その傾向がより強くなっている状況です。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和27年(2045年)の人口は6,329人で、平成27年(2015年)の10,799人に対して、約59%程度まで減少する見込みであり、年齢階層別では、高齢人口(65歳以上)が約71%、生産年齢人口(15~64歳)が約51%、学校施設に関連する年少人口(0~14歳)に関しては、約45%まで減少する見通しとなっています。

図 将来人口推計

資料：S55(1980)~H27(2015)(国勢調査) R2(2020)以降(国立社会保障・人口問題研究所)



② 財政状況

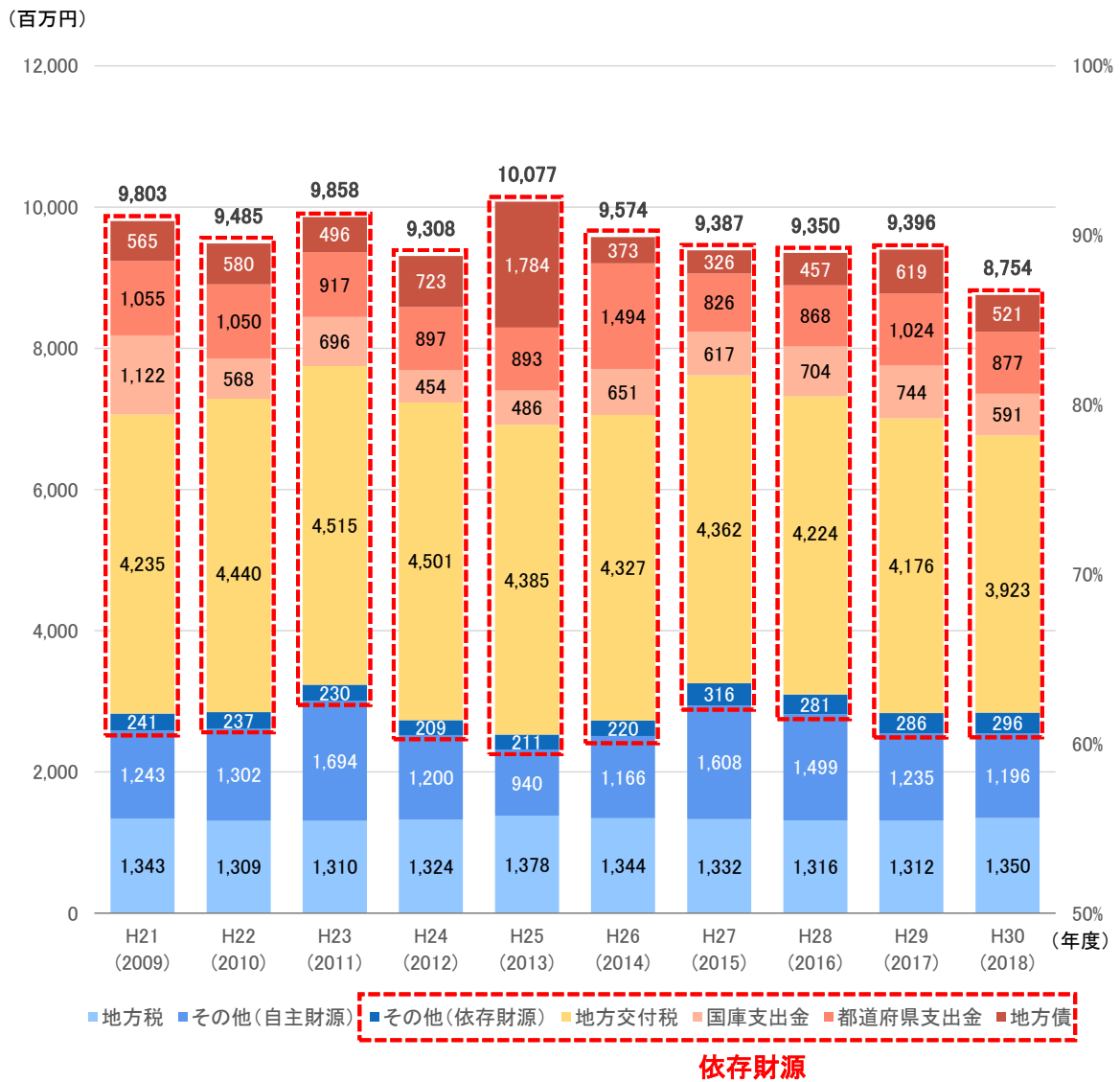
＜歳入の推移＞

平成 30 年度（2018 年度）の歳入総額は、約 87.5 億円と過去 10 年間で最も少なく、平成 21 年度（2009 年度）と比較して約 10.5 億円減少しています。

本町の歳入は依存財源の占める割合が高く、特に地方交付税に大きく依存しています。これまで、市町村合併に伴う普通交付税の合併算定替により財源不足を補ってきましたが、合併後 15 年目となる令和 2 年度には合併算定替の終了等により、大幅に減収することが予想されます。

また、自主財源は、過去 10 年間でほぼ横ばいの状況ですが、今後は、生産年齢人口の減少に伴う税収減が見込まれます。

図 歳入の推移 資料：総務省 市町村決算カード



＜歳出の推移＞

平成 30 年度（2018 年度）の歳出総額は、83.2 億円と過去 10 年間で最も少なく、平成 21 年度（2009 年度）と比較して約 8.4 億円減少しています。これは、地方債発行の抑制や、適正な定員管理による人件費削減等による効果と考えられます。

一方で、少子高齢化対策などの扶助費は年々増加している他、維持補修費についても施設の老朽化の進行等により増加傾向にあります。これらの費用は、今後も増加していくことが予想されることから、選択と集中による事業の計画的な実施や、集中する更新時期の分散を図るなど、一層の財政健全化への取組が必要です。

図 歳出の推移 資料：総務省 市町村決算カード

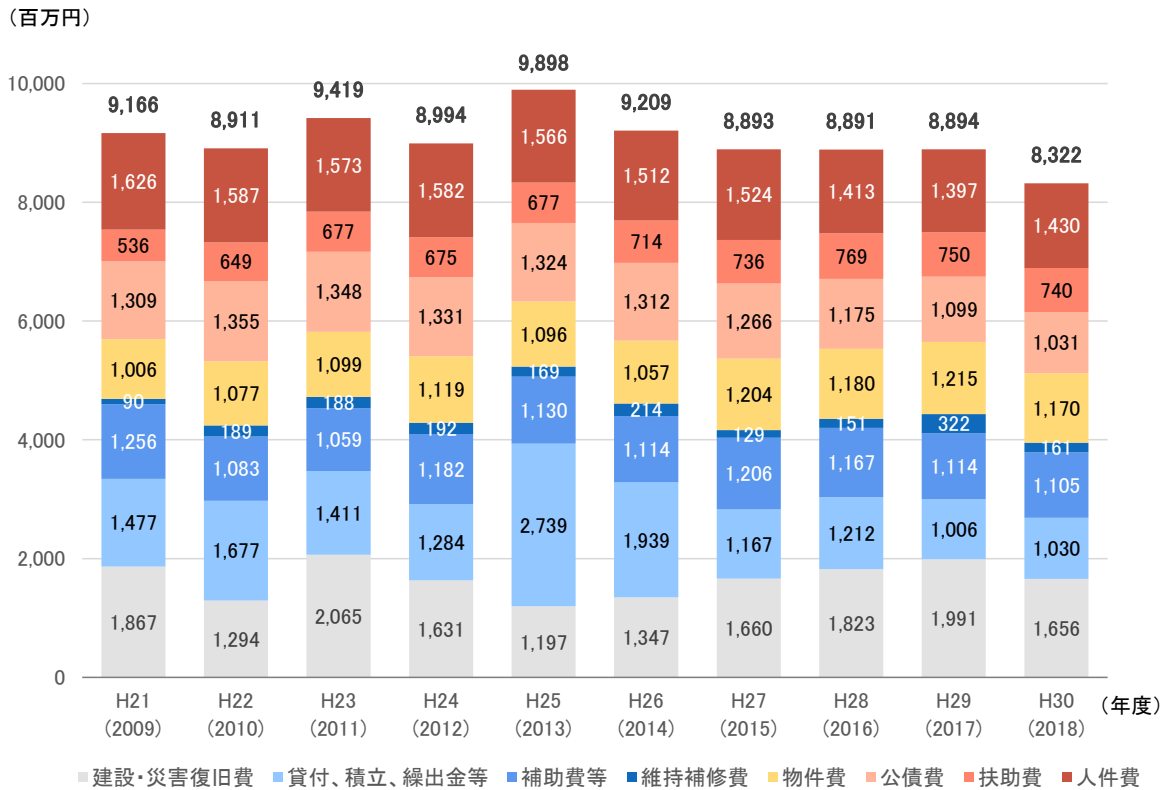
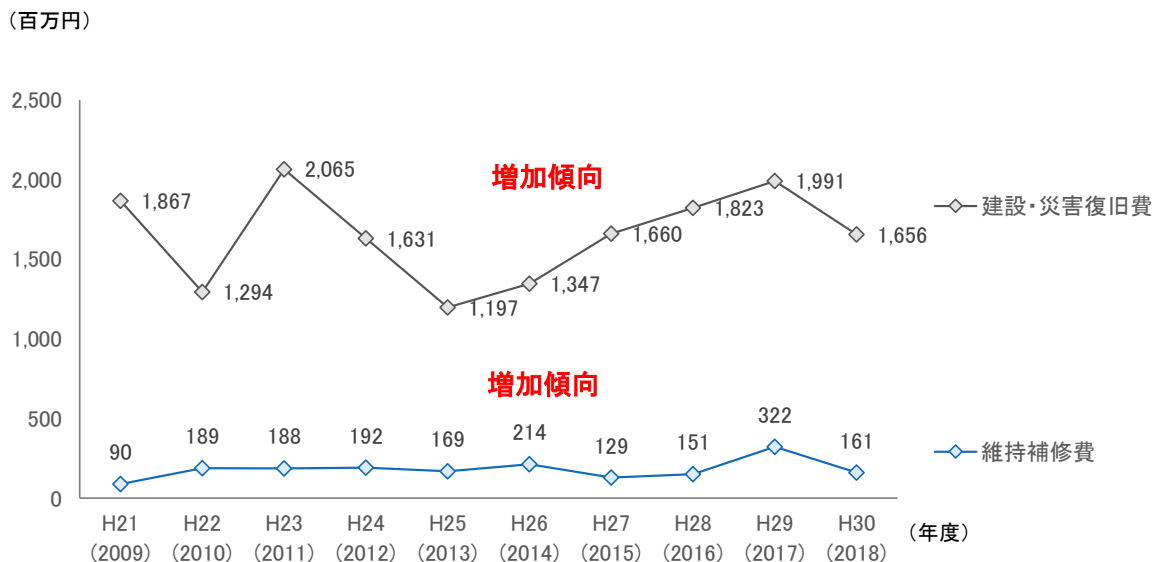


図 維持補修費、投資的経費の推移 資料：総務省 市町村決算カード



③ 公共施設の保有量

南越前町公共施設等総合管理計画が対象とする公共施設は、281 施設、面積 156,327 m²となっています。

このうち、学校教育系施設が占める割合（面積比）は、約 24.3%と最も高く、今後、維持管理費用の影響は大きくなっていくことが予想されます。

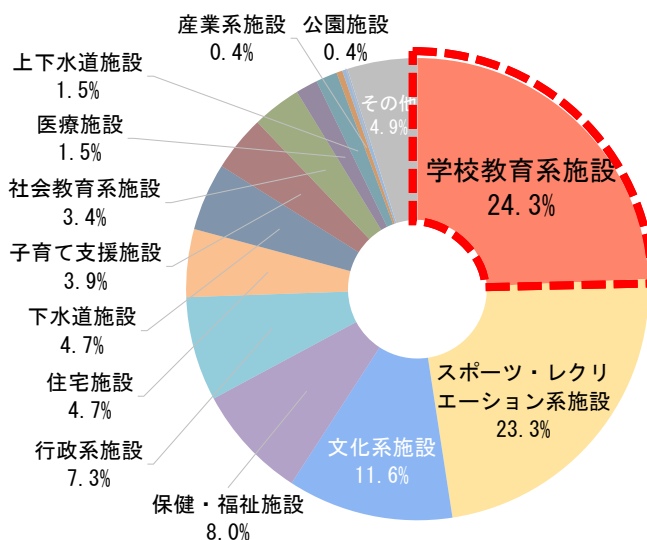


図 類型別公共施設の保有割合

資料：南越前町公共施設等総合管理計画

④ 対象施設一覧

本町には、小学校が 4 校、中学校が 3 校、あり、施設全体の延床面積は小学校が 21,434 m²、中学校が 15,504 m²で、小中学校合わせた延床面積は、36,938 m²になります。

小学校 1 校あたりの延床面積は、湯尾小学校 2,497 m²～南条小学校 9,141 m²となっています。また、中学校 1 校あたりの延床面積は、河野中学校 3,835 m²、今庄中学校 6,240 m²となっています。

この他、学校給食センターが 1 箇所あり、延床面積は 278 m²となっています。

表 学校施設一覧（令和 2 年 8 月現在）

資料：南越前町資料

名称	住所	延床面積 (m ²)	建築年度 和暦 西暦	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				通常	特別支援	通常	特別支援
小学校	南条小学校	南条郡南越前町東大道19-54	H16 (2004)	267	8	12	2
	湯尾小学校	南条郡南越前町湯尾88-2	S52 (1977)	70	2	6	1
	今庄小学校	南条郡南越前町今庄28-10-1	H19 (2007)	97	1	6	1
	河野小学校	南条郡南越前町甲楽城13-1	S47 (1972)	44	2	4	2
小学校 計		21,434		478	13	28	6
中学校	南条中学校	南条郡南越前町東大道32-8	S50 (1975)	133	7	6	2
	今庄中学校	南条郡南越前町今庄27-20	S54 (1979)	85	-	3	-
	河野中学校	南条郡南越前町甲楽城48-22-1	S55 (1980)	38	-	3	-
中学校 計		15,504		256	7	12	2
給食C	河野給食センター	南条郡南越前町甲楽城16-1-28	S58 (1983)	-	-	-	-
給食C 計		278		-	-	-	-
学校施設 合計		37,216		734	20	40	8

(2) 児童生徒数及び学級数の変化

① 児童生徒数及び学級数の推移

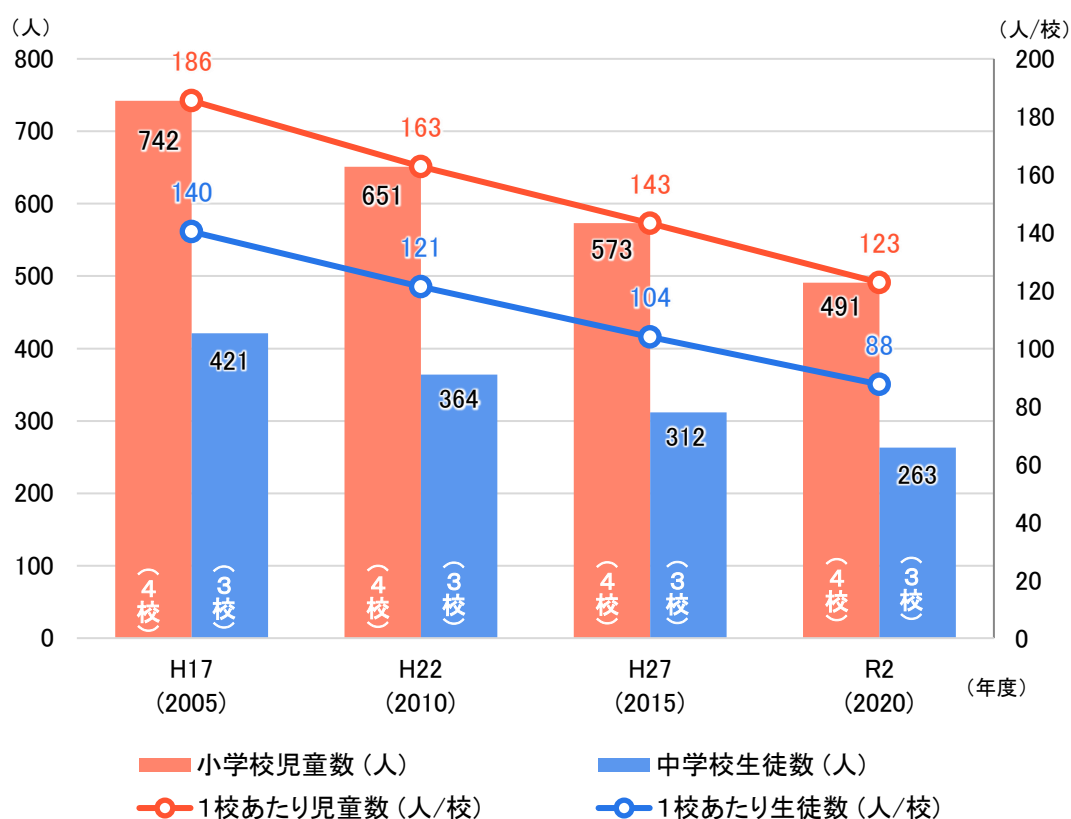
小学校の児童数は、令和2年(2020年)5月1日現在、491人(4校)となっています。児童数は、長年、減少傾向にあり、直近の15年間で約34%減少しています。

また、中学校の生徒数は、令和2年(2020年)5月1日現在、263人(3校)となっています。児童数と同様、生徒数も長年、減少傾向にあり、直近15年間で約38%減少しています。

表 児童生徒数等の推移(各年度4月1日現在) 資料:南越前町資料

和暦 西暦	単位	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
小学校校数	(校)	4	4	4	4
小学校児童数	(人)	742	651	573	491
1校あたり児童数	(人/校)	186	163	143	123
中学校学校数	(校)	3	3	3	3
中学校生徒数	(人)	421	364	312	263
1校あたり生徒数	(人/校)	140	121	104	88

図 児童生徒数等の推移(各年4月1日現在) 資料:南越前町資料



② 用途変更教室の状況

児童生徒数の減少に伴い余剰となった教室は、中学校で6教室存在し、その全てが多様化する教育環境のニーズに対応し、学習室や多目的室、会議室、生徒会室として利用されています。

表 余裕教室の状況

資料：南越前町資料

学校名	学級数		用途変更 教室数	用途変更教室の状況	
	通常	特別支援		変更後用途	室数
河野小学校	4	2	0	—	—
今庄小学校	6	1	0	—	—
湯尾小学校	6	1	0	—	—
南条小学校	12	2	0	—	—
合計	28	6	0		
河野中学校	3	0	1	学習室	1
今庄中学校	3	0	5	学習室	3
				多目的室	1
				会議室	1
南条中学校	6	2	1	生徒会室	1
合計	12	2	6		

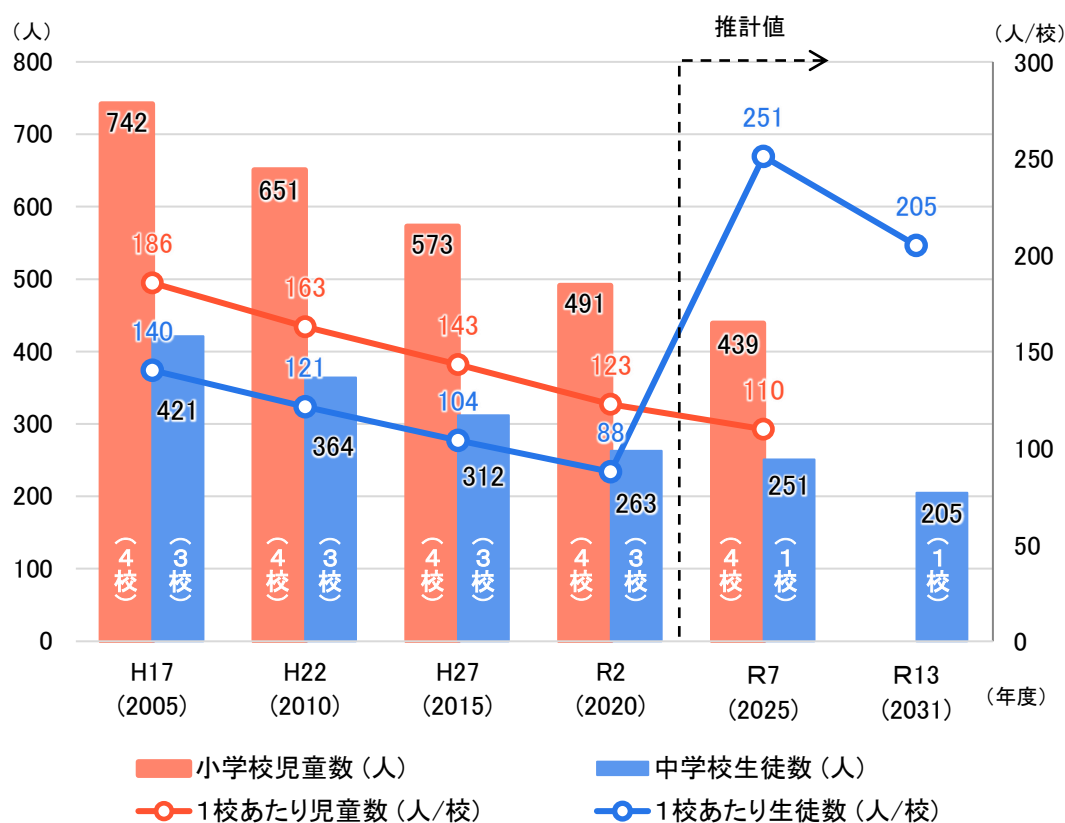
③ 児童生徒数の将来推計

本町の児童生徒数は、平成17年度（2005年度）から現在に至るまで減少傾向にあり、今後とも減少していくと推計されています。

一方、1校あたりの児童生徒数は、小学校が児童数と同様に減少していくのに対し、中学校は、令和4年度に3校を1校に統合（河野中学校、今庄中学校、南条中学校を統合）する予定であることから、それ以降は、200～250人規模で推移する見込みです。

図 児童生徒数等の将来推計（各年度4月1日現在）

資料：南越前町資料



(3) 学校施設の配置状況

① 現在の配置状況

計画対象の小学校（4校）、中学校（3校）の配置状況は下図の通りで、学校から遠方の集落については、スクールバスを運行している状況です。本町は合併して15年目を迎えますが、学校施設の規模や配置については、旧町村の方針に基づき行われてきたため、本町の学校施設は過小規模校や小規模校、適正規模校が混在している状況です。

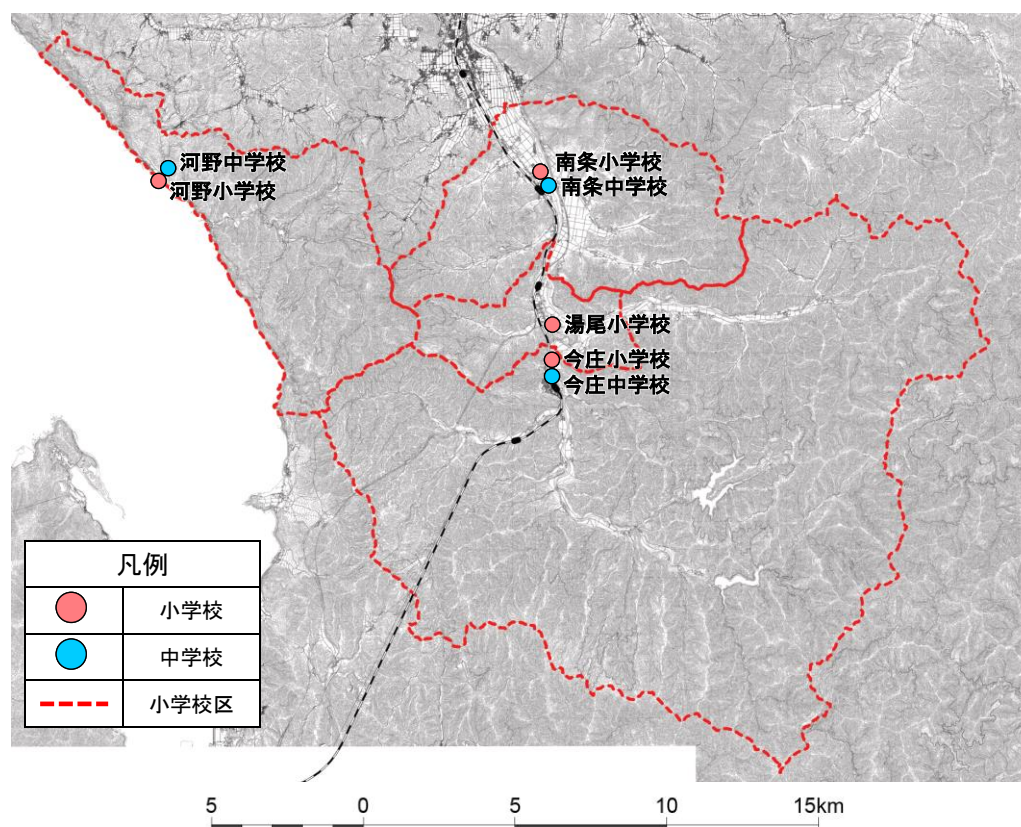
表 学級数による学校規模の現状（令和2年8月現在） 資料：南越前町資料

小学校名	過小規模 (1～5学級)	小規模 (6～11学級)	適正規模 (12～18学級)
南条小学校			12
湯尾小学校		6	
今庄小学校		6	
河野小学校	4		

中学校名	過小規模 (1～5学級)	小規模 (6～11学級)	適正規模 (12～18学級)
南条中学校		6	
今庄中学校	3		
河野中学校	3		

※学校規模の分類は、文部省助成課資料(昭和59年作成)「これからの学校施設づくり」から引用

図 学校施設の配置状況



② 中学校再編について

平成30年6月に南越前町小中学校再編検討委員会から提出のあった「南越前町の学校教育のあり方に関する提言書」や、令和元年12月に行われた学校再編に係る地区別懇談会で得られた意見を踏まえ、令和4年4月を目標に、現在3校ある中学校を新たに1つの中学校として統合することを決定しました。

(4) 施設関連経費の推移

平成 27 年度（2015 年度）から令和元年度（2019 年度）の 5 年間における学校施設の施設関連経費は、約 1.1 億円から 2.4 億円で、5 年間の平均は約 1.9 億円/年となっています。

施設関連経費のうち、施設整備費、維持修繕費については増加傾向にあり、平成 27 年度（2015 年度）から令和元年度（2019 年度）にかけて、施設整備費については約 10 倍、維持修繕費については、約 3 倍増加しており、施設の老朽化等に伴い、今後も増加していくことが予想されます。

表 学校施設の施設関連経費の推移

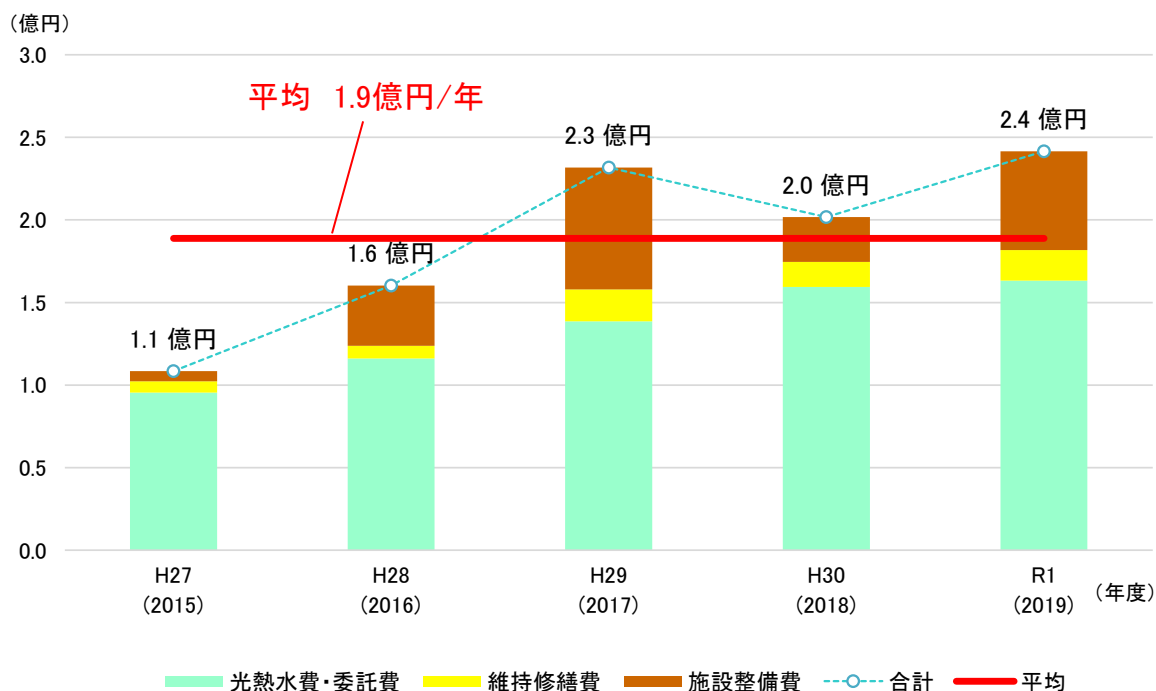
資料：南越前町資料

（単位：円）

和暦 西暦	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	合計
施設整備費	6,215,000	36,547,000	73,797,000	27,183,000	59,798,000	203,540,000
維持修繕費	6,887,000	7,617,000	19,388,000	15,011,000	18,588,000	67,491,000
光熱水費・委託費	95,417,000	116,170,000	138,547,000	159,491,000	163,175,000	672,800,000
合計	108,519,000	160,334,000	231,732,000	201,685,000	241,561,000	943,831,000
					5年間の平均	188,766,200

図 学校施設の施設関連経費の推移

資料：南越前町資料



(5) 学校施設の保有量

学校施設の保有量は、対象施設 25 棟、延床面積約 3.7 万㎡となっています。

学校施設の整備時期のピークは、昭和 47 年度（1972 年度）から昭和 55 年度（1980 年度）頃となっており、この時期に約 1.8 万㎡（全体の 49%）が整備されています。

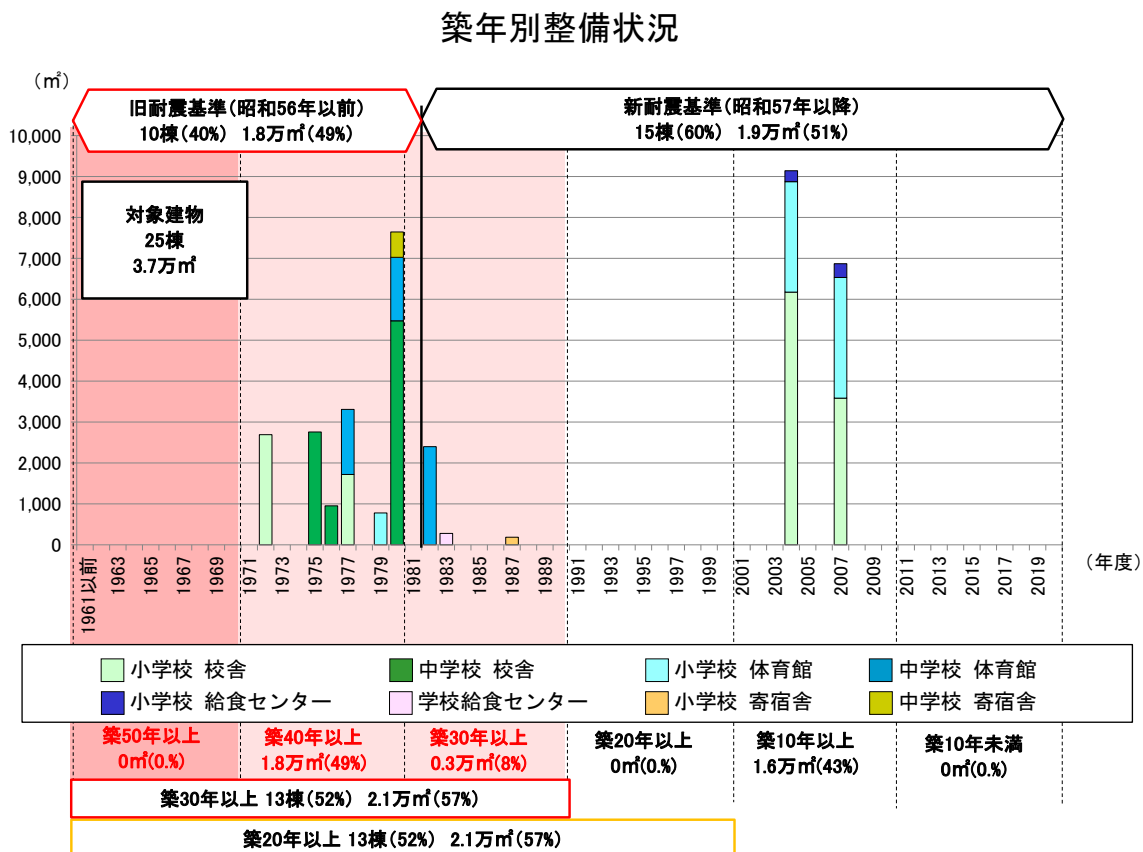
このため、築 30 年以上の建物が 13 棟（全体の 52%）、延床面積約 2.1 万㎡（全体の 57%）と老朽化が進んでいる状況です。

また、昭和 56 年（1981 年）以前に整備された旧耐震基準*の建物は 10 棟（全体の 40%）、延床面積約 1.8 万㎡（全体の 49%）となっています。

一方、鉄筋コンクリート造の一般的な耐用年数とされる築 50～60 年以上の建築物は無く、多くの建物について、長寿命化に係る対応を検討していくことが必要です。

※建築基準法に基づく建築物の設計において適用される地震に耐えることのできる構造の基準で、昭和 56 年（1981 年）5 月 31 日までの建築確認において適用されていた基準

図 学校施設の築年別整備状況 資料：南越前町資料



(6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

ここでは、大規模改造と建替えによる従来型の管理を行った場合の今後 40 年間の維持・更新コストを試算します。

試算条件は次のとおりとし、築年数に応じた時期に、現状と同じ施設を、同じ規模で建替え・改修することを前提とします。

工種	工事周期	工事単価	
		校舎・寄宿舍・給食センター	体育館
建替え	60 年	330,000 円/㎡	330,000 円/㎡
大規模改修	30 年	82,500 円/㎡ (建替え単価×25%)	72,600 円/㎡ (建替え単価×22%)

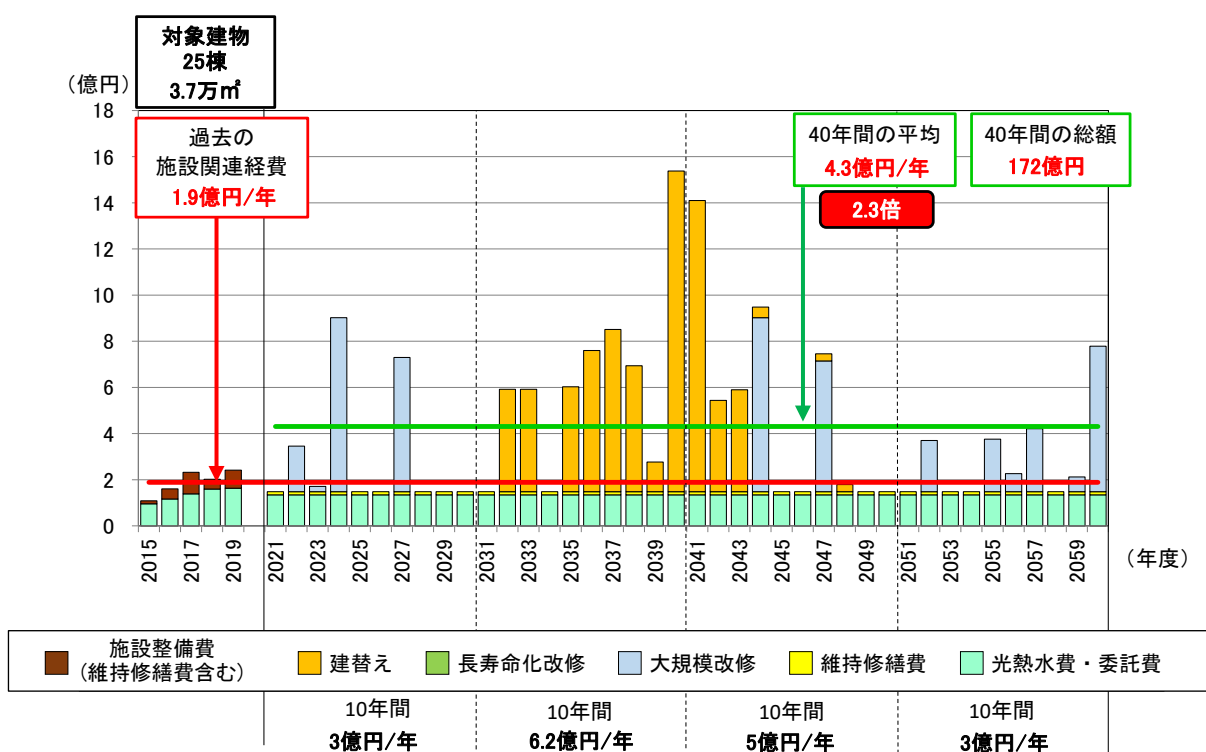
※工事周期は、南越前町公共施設等総合管理計画の「2 今後必要な公共施設等の更新費用に関する長期的な見通し（大規模改修と改築に係る費用試算）」に準じ、公共施設等更新費用試算ソフトで設定されている更新周期を採用

※建替えの単価は、上記と同様に公共施設等更新費用試算ソフトで設定されている標準単価を採用

※大規模改修の単価は、上記の建替え単価をベースに、学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属のエクセルソフトで設定されている既定値を採用

これまでの実績や鉄筋コンクリート造建物の一般的な耐用年数等を踏まえ、30年に1回程度の大規模改修（劣化した部分の改修等）、築60年程度で建替えを行った場合、維持・更新コストは、今後40年間の総額で約172億円、年平均4.3億円となります。これは、過去5年間の施設関連経費の平均約1.9億円の約2.3倍に相当し、このままでは学校施設の適切な維持・更新が困難となることから、長寿命化改修を柱とする対策を検討していくことが必要です。

図 従来の修繕・改修を続けた場合の維持・更新コスト 資料：南越前町資料



2. 学校施設の老朽化状況の実態

(1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

① 構造躯体の健全性の評価

《調査方法》

計画策定段階においては、すでに実施されている耐震補強の実施状況や目視状況等により、長寿命化改修に適さない可能性のある建物を簡易的に選別します。

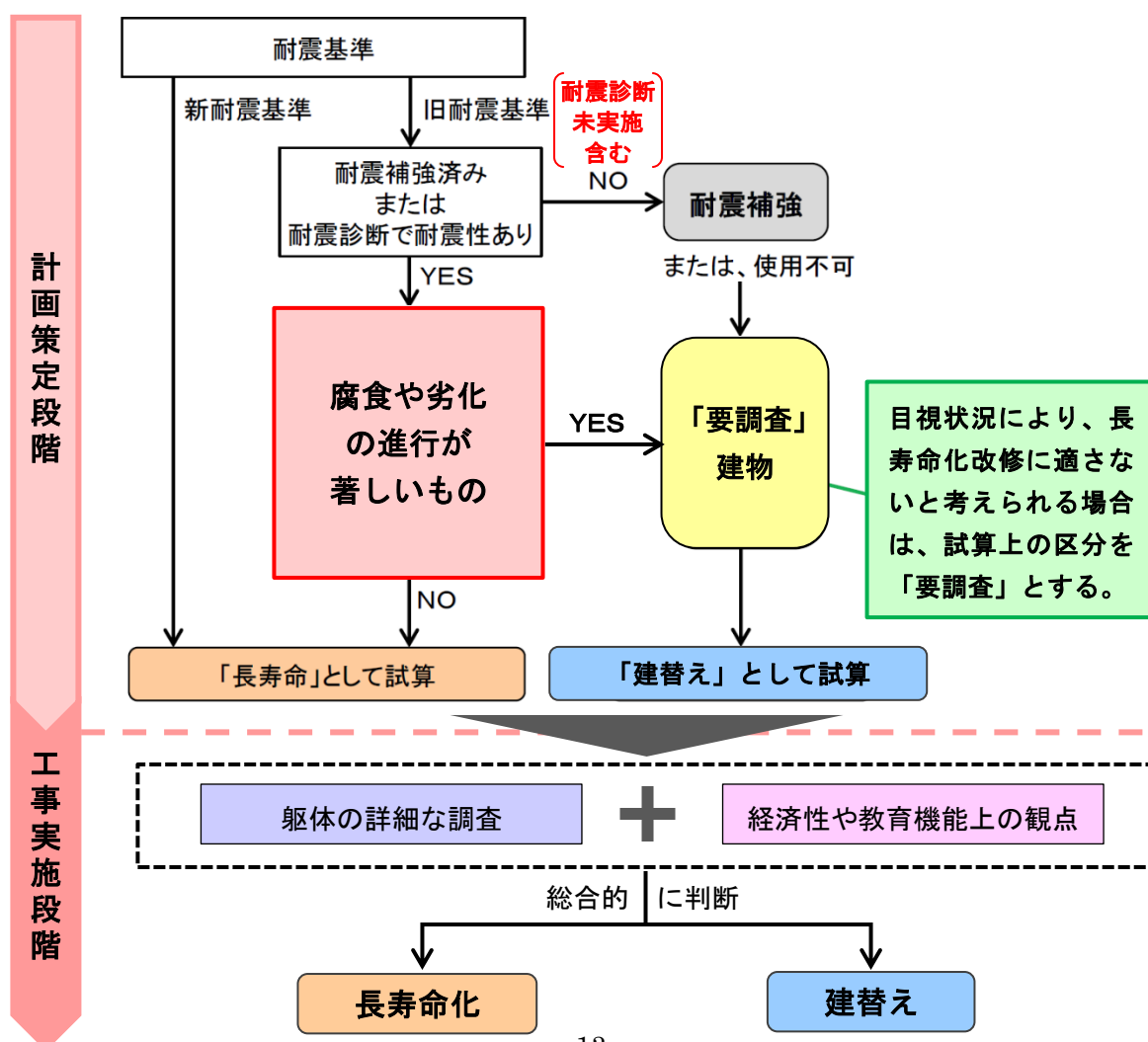
なお、工事実施段階においては、躯体の詳細な調査を行うとともに、経済性や教育機能等の観点も含めて、長寿命化改修の可否について、総合的に判断します。

《評価基準》

新耐震基準の学校施設は、全て「長寿命化改修」とします。一方、旧耐震基準の学校施設のうち耐震補強済であるものは「長寿命化改修」を基本としますが、目視状況により、腐食や劣化の状況が著しく、長寿命化改修に適さないと考えられる場合や、築年数が「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」の耐用年数（学校施設は47年）を超過している場合等は、試算上の区分を「要調査」とし、「建替え」として試算します。

また、長寿命化の判定に関しては、今後予定している中学校の統合も考慮していくものとします。

図 長寿命化の判定フロー 出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書



各学校施設の「構造躯体の健全性に係る評価」の結果は、下表のとおりです。

表 学校施設の基本情報と構造躯体の健全性

建物基本情報													構造躯体の健全性					
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	Is値	試算上 の区分
1	267	南条小学校	校舎1	011-1	小学校	校舎	W	2	673	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命
2	267	南条小学校	校舎2	011-2	小学校	校舎	W	2	915	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命
3	267	南条小学校	校舎3	011-3、011-4、 011-5	小学校	校舎	W	2	1,609	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命
4	267	南条小学校	校舎4	011-6	小学校	校舎	RC	2	1,885	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命
5	267	南条小学校	校舎5	011-7、011-8、 013	小学校	校舎	W	2	1,093	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命
6	267	南条小学校	体育館	009、010-1、 014	小学校	体育館	RC	1	2,699	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命
7	267	南条小学校	給食センター	012	小学校	給食センター	RC	1	267	2004	H16	16	新	-	-	-	-	長寿命
8	268	湯尾小学校	校舎	001、002	小学校	校舎	RC	3	1,719	1977	S52	43	旧	済	済	H20	0.77	長寿命
9	268	湯尾小学校	体育館	003-1、003-2	小学校	体育館	RC	2	778	1979	S54	41	旧	済	済	H20	1.01	長寿命
10	271	今庄小学校	校舎1	005-1、005-2、 006、008	小学校	校舎	RC	2	3,328	2007	H19	13	新	-	-	-	-	長寿命
11	271	今庄小学校	校舎2	009	小学校	校舎	S	1	256	2007	H19	13	新	-	-	-	-	長寿命
12	271	今庄小学校	給食センター	010	小学校	給食センター	RC	1	336	2007	H19	13	新	-	-	-	-	長寿命
13	271	今庄小学校	体育館	007-1、007-2	小学校	体育館	RC	2	1,369	2007	H19	13	新	-	-	-	-	長寿命
14	271	今庄小学校	寄宿舎	012	小学校	寄宿舎	RC	2	185	1987	S62	33	新	-	-	-	-	要調査
	271	今庄小学校	屋外附帯	011	小学校	その他	RC	1	17	2007	H19	13						
15	332	河野小学校	校舎	001	小学校	校舎	RC	3	2,691	1972	S47	48	旧	済	済	H15	0.8	要調査
16	332	河野小学校	体育館	002	小学校	体育館	RC	2	1,580	2007	H19	13	新	-	-	-	-	長寿命
	332	河野小学校	屋外附帯	003	小学校	その他	RC	1	34	1981	S56	39						
17	573	南条中学校	校舎1	001-1、 001-2	中学校	校舎	RC	4	2,757	1975	S50	45	旧	済	済	H18	0.73	長寿命
18	573	南条中学校	校舎2	002-1、002-2	中学校	校舎	RC	3	952	1976	S51	44	旧	済	済	H9	0.73	長寿命
19	573	南条中学校	体育館	003-1、003-2、 003-3	中学校	体育館	RC	2	1,590	1977	S52	43	旧	済	済	H18	0.73	長寿命
	573	南条中学校	屋外附帯	004-1、004-2、 005、006	中学校	その他	S	2	130	1983	S58	37						
20	3594	今庄中学校	校舎	001-1、001-2、 002、003	中学校	校舎	RC	4	3,222	1980	S55	40	旧	済	済	H18	0.74	要調査
21	3594	今庄中学校	体育館	005	中学校	体育館	RC	2	2,398	1982	S57	38	旧	済	済	H18	0.72	要調査
22	3594	今庄中学校	寄宿舎	004-1、004-2	中学校	寄宿舎	RC	2	620	1980	S55	40	旧	-	-	-	-	要調査
23	3597	河野中学校	校舎	001	中学校	校舎	RC	3	2,252	1980	S55	40	旧	済	済	H18	0.98	要調査
24	3597	河野中学校	体育館	003	中学校	体育館	RC	2	1,551	1980	S55	40	旧	済	済	H18	0.81	要調査
	3597	河野中学校	屋外附帯	002	中学校	その他	RC	1	32	1980	S55	40						
25		河野 給食センター	給食センター	001	給食センター	給食センター	RC	1	278	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命

屋外付帯施設は、小規模な施設であるため、長寿命化判定の対象外としている。

ただし、第6章 長寿命化の実施計画で、今後の維持・更新コストを算出するため、目視調査を行い、施設の劣化状況を確認している。

「要調査」判定の理由

・本来であれば、試算上の区分が「長寿命」となるべき施設を「要調査」とした理由は、概ね次のとおりです。

◇今庄小学校の「寄宿舎」

…現在、利用されておらず、建物の売却も検討されているため。

◇河野小学校の「校舎」

…築年数が減価償却資産の耐用年数等に関する省令における学校施設の耐用年数（RC造：47年）を超過しており、長寿命化は適切でないと考えられるため。

◇今庄中学校と河野中学校

…令和4年度に南条中学校と統合する予定であるため。

管理上の区分の整理

・学校施設台帳では、短期間で増築している部分等が、別棟として登録されているため建替えや改修を一体的に実施することが想定される棟をまとめて1つの建物として整理します。

・管理上の区分は、以下のルールを基本に整理します。

①棟のまとめ方は、建替えや改修に際して、一体的に工事すべき「かたまり」を「ひとつの棟」とし、渡り廊下、増築した教室棟などを、本体の教室棟と一体と見なす。

②渡り廊下は、枝番号がある場合は、親番号の棟に含める。別の棟番号がある場合は、後で整備された棟に含める。

③建物としては一体でも、エキスパンションジョイントで分割された教室棟は、建築年が5年未満の場合は「ひとつの棟」としてまとめる。

・また、管理上の区分でまとめた建物の基本情報は、以下のルールにより整理します。

①建物名は、校舎1、校舎2…、体育館などとし、連番は棟の建築年度の古い順とする。

②建築年度は、最も古い建築年度とする。

③構造種別は、最大の床面積のものとする。

④階数は、最大のものとする。

② 構造躯体以外の劣化状況等の評価

構造躯体以外の劣化状況等の評価は、以下に示すステップ1、ステップ2の2段階で行いました。ステップ1では、対象施設について、現場で調査・点検を行い、屋上・屋根、外壁、内部仕上、電気・給排水・空調設備、屋外付帯の部位ごとに、健全度を4段階（A～D）で評価しました。

さらに、ステップ2では、上記の調査・点検結果を基に、次の基準に従い、部位別の健全度を5段階（A, B, C-, C, D）で評価しました。

ステップ1
現場調査・点検

対象施設について、現場で調査・点検を行い、屋上・屋根、外壁、内部仕上、電気・給排水・空調設備、屋外付帯の部位ごとに、健全度を4段階（A～D）で評価

表 現場調査・点検における健全度判定基準

評価	基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
D	早急な対応が必要 (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し、設備運営に支障を与えている)等

※なお、A～Dの具体的な評価基準は16～18頁の通りです。



ステップ2
部位別健全度判定

ステップ1の調査・点検結果を基に、次の基準に従い、部位別の健全度を5段階（A, B, C-, C, D）で評価

表 部位別健全度判定基準

部位	健全度調査票	劣化状況	部位別健全度判定
屋根・外壁・外部躯体	D	1か所以上みられる	D
	C(緊急度高)	1か所以上みられる	C
	C(緊急度中)	1か所以上みられる	C-
	B	1か所以上みられる	B
上記以外の外部・内部・設備・屋外付帯	D	1か所以上みられる	D
	C(緊急度高)	複数もしくは広範囲	C
		1か所もしくは部分的範囲	C-
	C(緊急度中)	複数もしくは広範囲	C-
		1か所もしくは部分的範囲	B
B	1か所以上みられる	B	

表 屋上・屋根に係る健全度の評価基準（ステップ1）

仕 様	A	B	C	D
アスファルト保護防水	特に無し	保護コンクリートの部分的なひび割れがみられる。目地の剥れや損傷が部分的にみられる。	保護コンクリートの部分的な断面欠損や、広範囲にひび割れがみられる。目地の剥れが広範囲にみられる。施工不良による排水不良がみられる。	保護コンクリートが広範囲に欠損しており、部分的もしくは広範囲で漏水している。
アスファルト露出防水	特に無し	部分的に膨れや防水層表面材の摩耗がみられる。トップコートの摩耗がみられる。	継ぎ目のひび割れや表面材の摩耗が広範囲にみられる。施工不良による排水不良がみられる。ドレン廻りに亀裂がみられる。	大きなひび割れ・破断・損壊が広範囲にみられ、部分的に下地の露出がみられる。部分的もしくは広範囲で漏水している。
シート防水	特に無し	部分的に膨れ、しわ、表面材の摩耗がみられる。	膨れ、しわ、表面材の摩耗が広範囲にみられる。部分的に小さな亀裂や接合部のはかれがみられる。	大きな膨れやしわが広範囲にみられる。シートのめくれによる下地の露出がみられる。部分的もしくは広範囲で漏水している。
塗膜防水	特に無し	部分的に膨れやトップコートの摩耗がみられる。	トップコートが完全に劣化しており、下地(メッシュ)が浮き出ている。膨れが広範囲にみられる。	大きな膨れが広範囲にみられる。下地(メッシュ)の完全露出がみられる。部分的に亀裂がみられる。部分的もしくは広範囲で漏水している。
立上り(保護)	特に無し	防水保護材(モルタルや成形板等)に部分的なひび割れがみられる。	防水保護材(モルタルや成形板等)に大きなひび割れや欠落があり、防水材が露出している。	防水材に大きなひび割れや摩耗・継ぎ目の破断がみられ、末端シーリング等が完全に劣化している。
立上り(露出)	特に無し	部分的に膨れやトップコートの摩耗がみられる。	防水材に亀裂・ふくれが多くみられ、下地(メッシュ)が浮き出ている。水切り金物や端末シーリングの劣化が広範囲にみられる。	防水材に大きなひび割れや摩耗・継ぎ目の破断がみられ、その結果下地の露出がみられる。
笠木	特に無し	金属系笠木の継ぎ目シーリングが劣化している。モルタル笠木の塗装等仕上げ材が劣化している。	金属系笠木に発錆・腐食がみられる。モルタル笠木にひび割れやモルタルの浮きがみられる。	金属系笠木の欠落がみられる。モルタル笠木の大きなひび割れやモルタルの欠損がみられる。
瓦・スレート屋根	特に無し	色褪せがみられる。棟部分の漆喰が劣化している。	瓦のズレや部分的な割れがみられる。	瓦のズレや欠落が多くみられ、部分的に下地の露出がみられる。部分的もしくは広範囲で漏水している。
鋼板屋根	特に無し	部分的に塗装のはがれ、さびがみられる。	塗装のはがれ、さびが広範囲にみられ、雪止め金物や取付金物に部分的な腐食・損壊がある。	さびが広範囲にみられるほか、腐食が部分的にみられる。部分的もしくは広範囲で漏水している。

表 外壁に係る健全度の評価基準（ステップ1）

仕 様	A	B	C	D
塗装・吹付け	特に無し	全体的に色褪せて、チョーキング現象が発生している。亀甲ひび割れ・水垢等による汚れ・塗膜の浮きやふくれれが少数であるがみられる。	広範囲に色褪せや水垢等による汚れ・亀甲ひび割れや錆び汁がみられ、さらに部分的に塗膜の亀裂・はがれ・ふくれがみられる。	広範囲に塗膜の亀裂やふくれや脱落がみられる。触れると塗膜が剥離する状況。
タイル・モルタル	特に無し	部分的に、小さなひび割れ・浮き・白華がみられる。	広範囲に、ひび割れ・浮き・白華がみられ、部分的に脱落がみられる。	広範囲に脱落がみられる。部分的に大きなひび割れと白華がみられる漏水している。
金属系パネル	特に無し	全体的に色褪せており、部分的なさびがみられる。	塗装のはがれ・さびが広範囲にみられる。腐食や ぐらつき・漏水が部分的にみられる。	広範囲にさび・ぐらつき・腐食がみられる。漏水が部分的にみられる。
セメント系パネル・サイディング	特に無し	全体的に色褪せており、部分的なひび割れがみられる。	広範囲に色褪せ・水垢等による汚れ・ひび割れや取付金物の錆び汁がみられる。取合いシーリングが完全に劣化している。	パネルの爆裂・欠落がみられる。
木板塗装仕上げ	特に無し	木部保護塗装の色褪せや、木部の表面に白銀色がみられる。	広範囲に塗装の剥離や木材の変形がみられ、部分的に腐食がみられる。緊結金物に錆が多くみられる。	広範囲に塗装の剥離・木材の変形・腐食・脱落がみられる。緊結金物に腐食が多くみられる。
コンクリート躯体	特に無し	小さなひび割れや亀甲ひび割れがみられる。白華や錆び汁が部分的にみられる。	部分的に露筋や欠損がみられる。幅4mm以上のクラックが広範囲にみられる。	広範囲に露筋・躯体の欠損がみられる。幅8mm以上の大きなクラックが広範囲にみられる。漏水が部分的にみられる。
鉄骨躯体	特に無し	全体的に鋼材の防食被覆の変色、ひび割れ、剥がれが生じている状態。部分的に錆がみられる。	広範囲の表面的な錆がみられる。部分的に、構造上問題とならない箇所の腐食がみられる。	柱、梁等構造的に問題となる箇所にも局部的又は全体的に腐食がみられる。
シーリング	特に無し	部分的に切れ・ひびがみられる。	広範囲に切れ・硬化・ひびがみられる。	広範囲に切れ・硬化・ひびの他に欠損している箇所がある。漏水が部分的にみられる。
樋・手摺・面格子等金属部材	特に無し	取付部分にぐらつきがみられる。金属部材とその緊結金物に錆が部分的にみられる。	金属部材とその緊結金物に錆が多くみられる。縦樋の塗装が完全に劣化している。	金属部材とその緊結金物に錆・腐食が多くみられ、欠落の恐れがある。縦樋が破損している。
鋼製建具	特に無し	塗装の色褪せや、部分的に変形がみられる。ガラスの破損や鉄線のさびがみられる。	全体的に塗装の劣化・さび・変形・変質がみられる。金物に破損がみられる（施錠・取っ手・戸車・ドアチャック等の破損）。	全体的に腐食・変形・破損しており、開閉不可の状況である。

表 内部・設備・屋外付帯に係る健全度の評価基準（ステップ1）

仕 様	A	B	C	D
床・壁・天井	特に無し	損傷・剥がれ・ひび割れ・汚れ・局部的にみられる。また、使用上・美観上・衛生上問題が無い状態。	変形・摩耗・損傷・剥がれ・ひび割れ・汚れが広範囲にみられ、使用上・美観上・衛生上の低下が懸念される状態。（広範囲：面積の概ね25%）	変形・摩耗・損傷・剥がれ・ひび割れ・汚れの程度が著しく、広範囲にみられ、使用上・美観上・衛生上深刻な状態。（広範囲：面積の概ね25%以上）
内部建具	特に無し	塗装や仕上げに变色・剥がれ・損傷がみられ、ガラスや金物の破損が少なく、機能上問題が無い状態。	塗装や仕上げに变色・剥がれ・損傷が随所にみられ、ガラスや金物の破損が随所にみられる。（随所：5～10箇所程度） 機能上・美観上の低下が懸念される状態。	塗装や仕上げに变色・剥がれ・損傷の程度が著しく、多くみられる。 閉閉困難の状態である。 機能上・美観上問題がある状態。
雑・金物	特に無し	仕上げに变色・剥がれ・損傷がみられるが、箇所が少なく、使用上・機能上・美観上問題が無い状態。	仕上げに变色・剥がれ・損傷がみられ、使用上・機能上・美観上の低下が懸念される状態。	損傷や劣化が激しく、使用禁止の状態である。 機能上・美観上深刻な状態。
キュービクル・引込開閉盤	特に無し	盤の仕上げや扉について、变色や部分的な剥がれ・損傷がみられる。 機能的には問題が無い状態。	盤の仕上げや扉について、变色や剥がれ・さび・損傷が多くみられる。 盤内に雨水が侵入した跡がみられる。 扉の開閉が困難である。 法定点検により問題を指摘されている。 更新時期を5年未満で過ぎている。	盤の仕上げや扉について、著しい腐朽、所定の固定性が損なわれ、盤内に雨水が侵入している状態である。 法定点検により深刻な問題を指摘されている。 更新時期を5年以上過ぎてている。
電灯照明機器・非常用照明・誘導灯	特に無し	特に目立った損傷・劣化はみられないが、省エネ形以外の蛍光灯や白熱灯が多く使用されている。 非常用照明について、法定点検による不点灯の指摘が1～4箇所程度。	変形・損傷・経年劣化が数多く目立つ状態。 非常用照明について、法定点検による不点灯の指摘が5～10箇所程度。	著しい変形・損傷・腐食・経年劣化が数多く目立ち、落下の恐れがある状態。 非常用照明について、法定点検による不点灯の指摘が多く、経年劣化が目立つ。
放送設備・弱電設備・自動火災報知機	特に無し	法定点検による指摘が1～4箇所程度。	変形・損傷・経年劣化が多く、機能上不備がある状態。 法定点検による指摘が5～10箇所。 更新時期を5年未満で過ぎている。	著しい変形・損傷・腐食・経年劣化が数多く目立ち、落下の恐れがある状態。 法定点検による指摘が多い。 更新時期を5年以上過ぎてている。
空調設備機器	特に無し	損傷や錆が部分的にあるが、機能上・構造上問題が無い状態。	変形・損傷・経年劣化・腐食が多く、所定の固定性や機能の低下が懸念される状態。 更新時期を5年未満で過ぎている。	機器の不良や作動しない状態。 著しい変形・損傷・腐食・経年劣化が多く、所定の固定性が損なわれている状態。 更新時期を5年以上過ぎてている。
給排水・給湯設備(水栓・湯沸機・受水槽・ポンプ等)	特に無し	損傷や錆が部分的にあるが、機能上・構造上問題が無い状態。 交通バリアフリー法対象施設としての所定の対応がなされていない。	損傷・経年劣化・腐食が多く、所定の固定性や機能の低下が懸念される状態。 水栓器具にぐらつきや水漏れがみられる。 更新時期を5年未満で過ぎている。	機器の不良や作動しない状態。 著しい変形・損傷・腐食・経年劣化が多く、所定の固定性が損なわれている状態。 更新時期を5年以上過ぎてている。
衛生設備機器	特に無し	損傷が部分的にあるが、機能上・構造上問題が無い状態。	水漏れがみられる。 損傷・劣化・腐食が生じて、所定の固定性に低下が懸念される状態。	著しい変形や損傷や腐食や経年劣化により、不良・作動しない状態。 使用禁止の箇所がある。
屋外付帯	特に無し	損傷や錆が部分的にあるが、機能や構造的な安全性には問題が無い状態。	利用し続けるためには部分的な補修、もしくは更新が必要な状態。	重大な事故につながる恐れがあり、緊急な修繕・更新が必要とされるもの。 全体的に顕著な劣化である。

参考 ステップ1 現地調査・点検結果の概要（南条小学校の一部抜粋）

・調査結果は、現地調査結果の概要（下表）として取り纏め、写真とともに整理しています。

学校名 (棟名)	棟番号	規模等	設置年度	築年数	部位	仕様	場所	点検調査結果概要	写真番号	健全度	緊急度
南条小学校 (校舎1)	1	木造 2階 673m ²	H16 2004年	16	外壁・軒	レンガ	全体	外壁レンガに白華、軒と窓台のレンガにコケ及び変色	4, 5, 7	B	低
					電気設備	その他	南面	センサーに錆び	3	B	低
					空調設備	個別方式エアコン	北面	空調機架台錆び	6	B	低
南条小学校 (校舎2)	2	木造 2階 915m ²	H16 2004年	16	屋根	瓦葺	屋根	瓦欠け、隅棟に植栽	10, 11	B	低
					外壁・軒	レンガ	全体	壁レンガに白華	12	B	低
南条小学校 (校舎3)	3	木造 2階 1609m ²	H16 2004年	16	外壁・軒	レンガ	全体	防火壁レンガのひびわれ及び欠損、外壁レンガに白華、 外壁レンガにコケ及び変色	15, 16, 17, 18, 21	C	中
					外部床・仕上げ	タイル張	図工室	出入口にコケ繁茂、外部階段にコケ、変色	20, 22	C	中
					シーリング	その他	東面	笠木シールの剥離	19	C	中
					空調設備	個別方式エアコン	北面	空調機架台錆び	23	B	低
					屋根	瓦葺	屋根	瓦水切りのさび及び腐食、軒先瓦欠け、瓦割れ、面戸内の 葺土がこぼれる	26, 32, 34, 35	C	中
南条小学校 (校舎4)	4	RC造 2階 1885m ²	H16 2004年	16	屋根	長尺金属板葺	屋根	アルミルーフトリ子キヤップのはずれ	27	C	高
					屋根	雑・その他	屋根	金属屋根及び太陽光パネル支持材に錆び	33	C	中
					屋根	雑・その他	屋根	ドレン周囲に土が溜まる	31	B	低
					外壁・軒	レンガ	全体	軒先にコケ、植栽（雨水経路）、外壁レンガに白華、外 壁及び軒にコケと変色	37, 38, 39, 40, 41, 42	C	中
					外部床・仕上げ	タイル	西面	出入口の床タイルにコケ、変色	36	C	中
南条小学校 (校舎5)	5	木造 2階 1093m ²	H16 2004年	16	シーリング	その他	屋根	立上り水切り押えシーリングの欠陥、EXP.J部シールの 劣化	29	C	中
					樋・金属雑	水切り	屋根	立上り水切りはずれ	30	C	中
					屋根	雑・その他	屋根	丸環に錆び	46	B	低
					外壁・軒	レンガ	全体	外壁にコケ、植栽（雨水経路）、外壁レンガに白華、変 色	47, 48	C	中
					外壁・軒	打放し仕上	北面	コンクリート欠損、ひびわれ大	50	C	中
外部躯体	W	東面	木部の塗装劣化	49	C	中					
空調設備	個別方式エアコン	北面	空調機架台錆び	51	B	低					

参考 現地調査結果写真台帳（南条小学校の一部抜粋）

建物名	南条小学校
構造・階数	



写真番号	17 (南面)
種別	外壁
細別	外壁レンガに白華 (全体的)



写真番号	19 (東面)
種別	シーリング
細別	笠木シールの剥離



写真番号	27
種別	屋根
細別	アルミルーフ吊子キャップのはずれ



写真番号	29
種別	シーリング
細別	立上り水切り押えシーリングの欠陥



写真番号	30
種別	屋根
細別	立上り水切りはずれ



写真番号	39 (南面)
種別	軒
細別	軒裏にコケ、変色 (全体的)

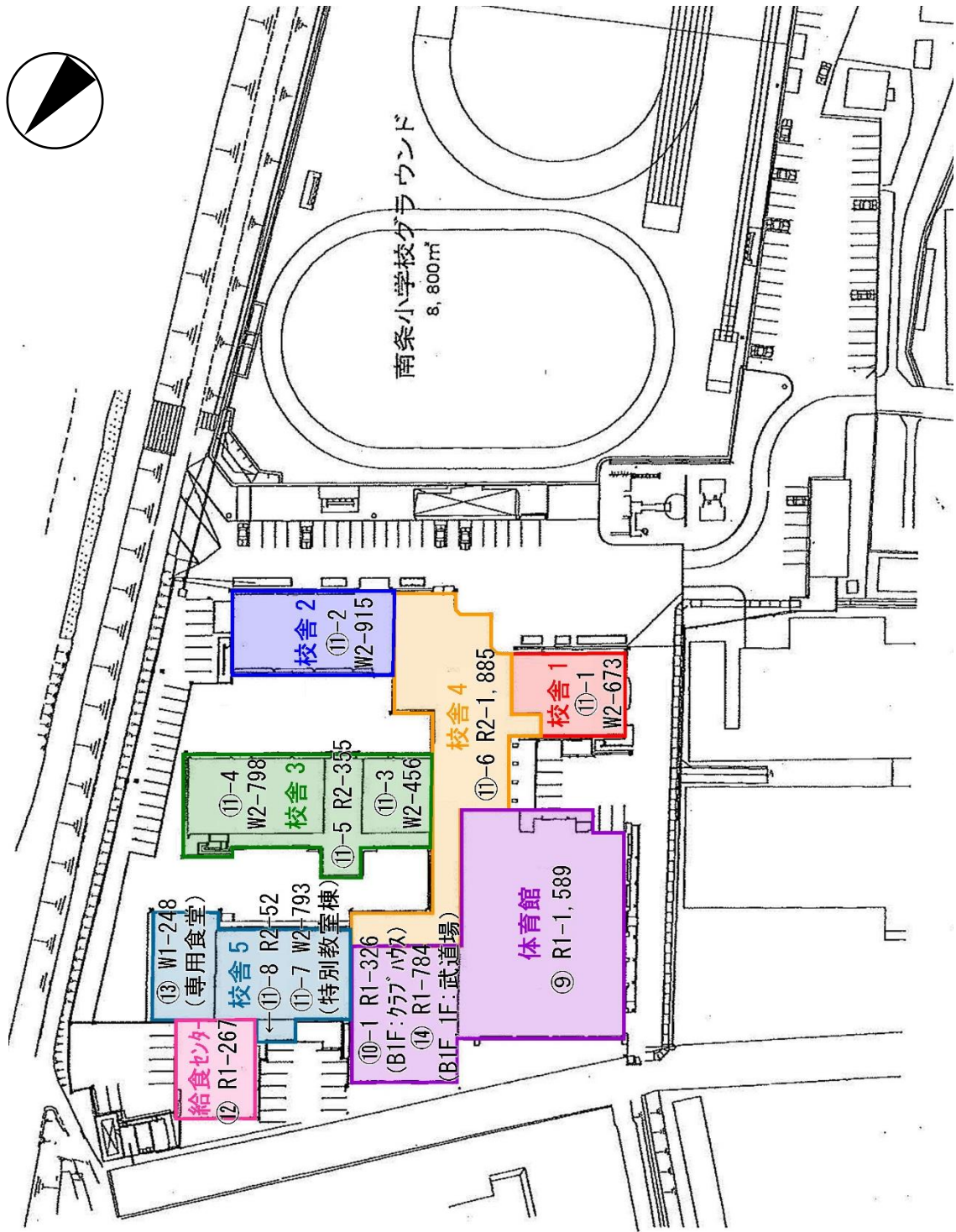
表 ステップ2 部位別健全度判定一覧1

No	施設名	建物名	建築											設備			屋外附帯
			屋根	外壁	外部躯体	外部・雑金属	外部建具	外部床	内部建具	内部仕上床	内部仕上壁	内部仕上天井	内部・雑金属	電気	給排水衛生	空調換気	
1	南条小学校	校舎1	A	B	A	A	A	B	A	B	B	B	B	A	A	B	C-
2	南条小学校	校舎2	B	B	A	A	A	B	A	B	B	C-	B	A	A	A	
3	南条小学校	校舎3	A	C-	A	A	A	A	B	B	C-	C-	B	A	A	B	
4	南条小学校	校舎4	C	C-	A	B	A	A	B	B	C-	B	B	A	A	A	
5	南条小学校	校舎5	B	C-	C-	A	A	A	A	B	B	C-	B	A	A	B	
6	南条小学校	体育館	A	C-	A	B	B	C-	B	B	D	C	B	A	A	A	
7	南条小学校	給食センター	A	C-	B	A	B	B	A	A	C-	B	A	A	C-	B	
8	湯尾小学校	校舎	C	C-	B	B	B	A	B	C-	C-	B	B	B	C-	C	D
9	湯尾小学校	体育館	A	C	B	A	B	B	B	A	C-	A	B	A	A	A	
10	今庄小学校	校舎1	D	C	A	C-	B	C-	B	C-	B	C	A	A	A	A	C-
11	今庄小学校	校舎2	C-	B	A	A	A	A	A	B	B	C	A	A	A	A	
12	今庄小学校	給食施設	B	C	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	B	A	
13	今庄小学校	体育館	D	C	A	C-	C	A	B	A	B	B	B	A	A	A	
14	今庄小学校	寄宿舎	C-	C	B	C	B	C-	C	C	C	C	A	C-	B	A	

表 ステップ2 部位別健全度判定一覧2

No	施設名	建物名	建築											設備			屋外附帯
			屋根	外壁	外部躯体	外部・雑金属	外部建具	外部床	内部建具	内部仕上床	内部仕上壁	内部仕上天井	内部・雑金属	電気	給排水衛生	空調換気	
15	河野小学校	校舎	B	C-	B	B	B	C-	B	C-	C-	A	B	B	A	B	C-
16	河野小学校	体育館	B	C-	C-	B	C-	A	B	B	B	A	A	B	A	A	
17	南条中学校	校舎1	D	C	D	C-	D	C-	B	C-	C-	D	C-	C	C-	C-	C
18	南条中学校	校舎2	C-	C-	D	C-	A	A	B	C	C-	B	B	B	A	C-	
19	南条中学校	体育館	C	C	A	C-	B	B	B	C	B	C-	C-	B	B	B	
20	今庄中学校	校舎	D	C	C-	C-	C-	B	B	C-	C	C-	B	C-	C-	C	C-
21	今庄中学校	体育館	C	C	C	C-	C-	C-	B	B	B	B	B	B	B	B	
22	今庄中学校	寄宿舍	D	C-	B	B	B	C-	A	C-	C	D	B	A	C-	C-	
23	河野中学校	校舎	D	C	B	B	B	C-	B	B	C-	B	C-	B	B	B	C-
24	河野中学校	体育館	C	C	A	C-	C-	B	B	C-	C-	B	B	A	A	B	
25	河野 給食センター	給食センター	C	C	B	C-	A	B	B	C-	C-	B	A	B	A	B	C-

図 学校施設位置図 (南条小学校) 施設の番号は、14 ページの棟番号と整合



構造	
W	木造
S	鉄骨造
R	鉄筋コンクリート造

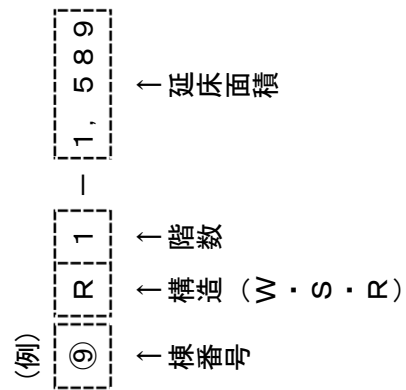


図 学校施設位置図 (湯尾小学校) 施設の番号は、14 ページの棟番号と整合

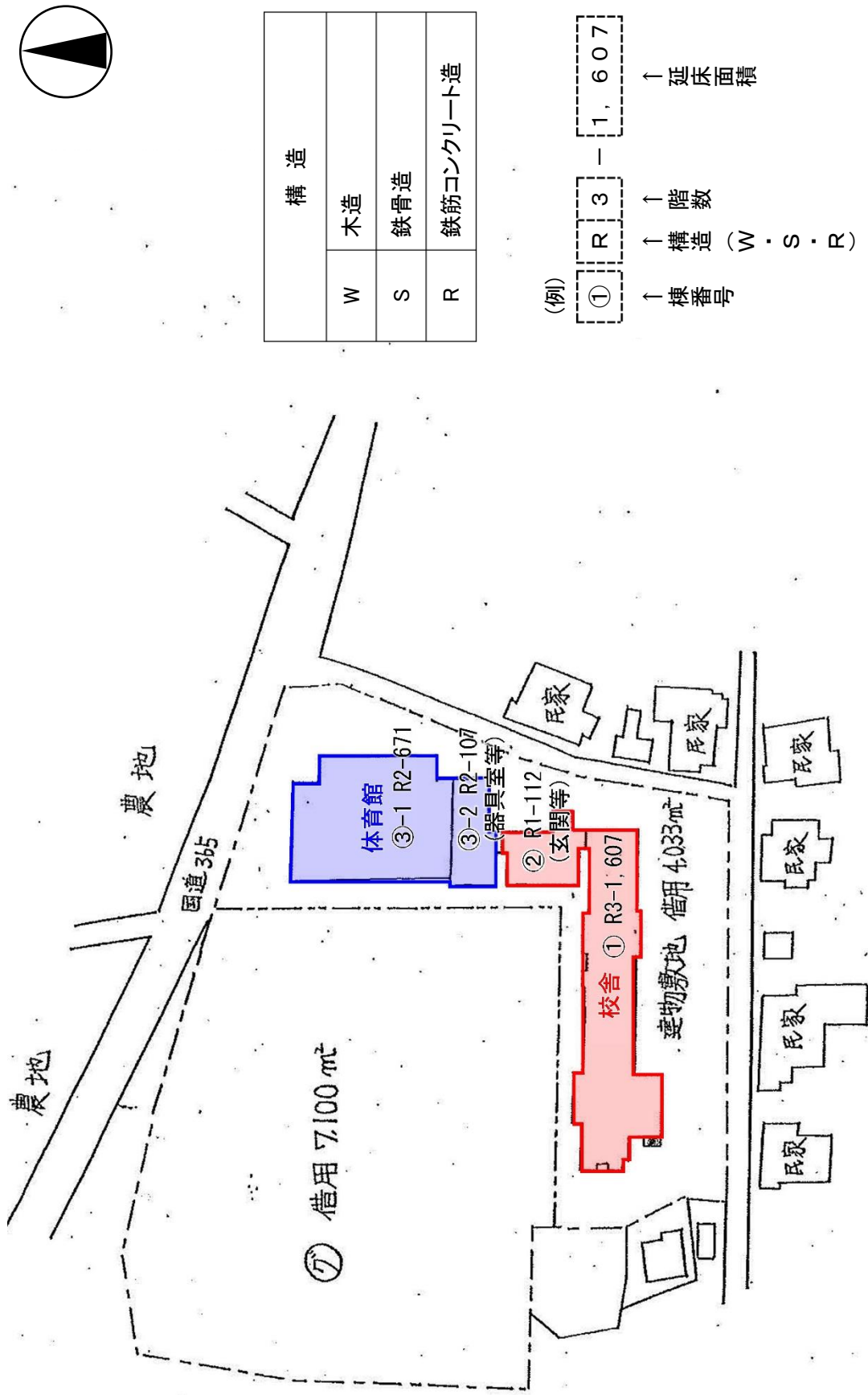
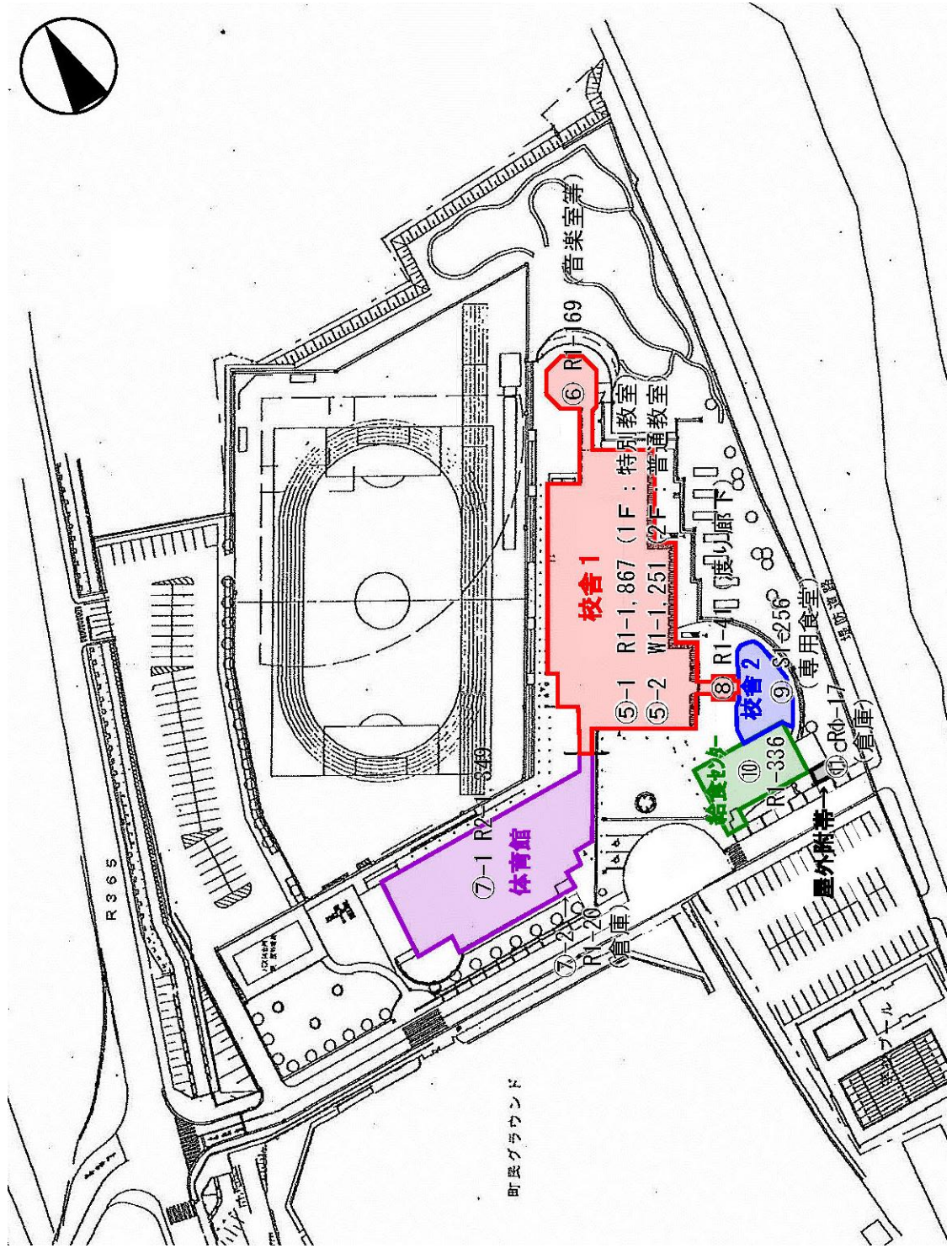


図 学校施設位置図 (今庄小学校)

施設の番号は、14 ページの棟番号と整合



構造	
W	木造
S	鉄骨造
R	鉄筋コンクリート造

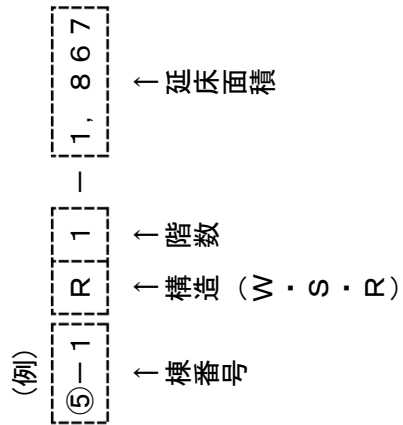
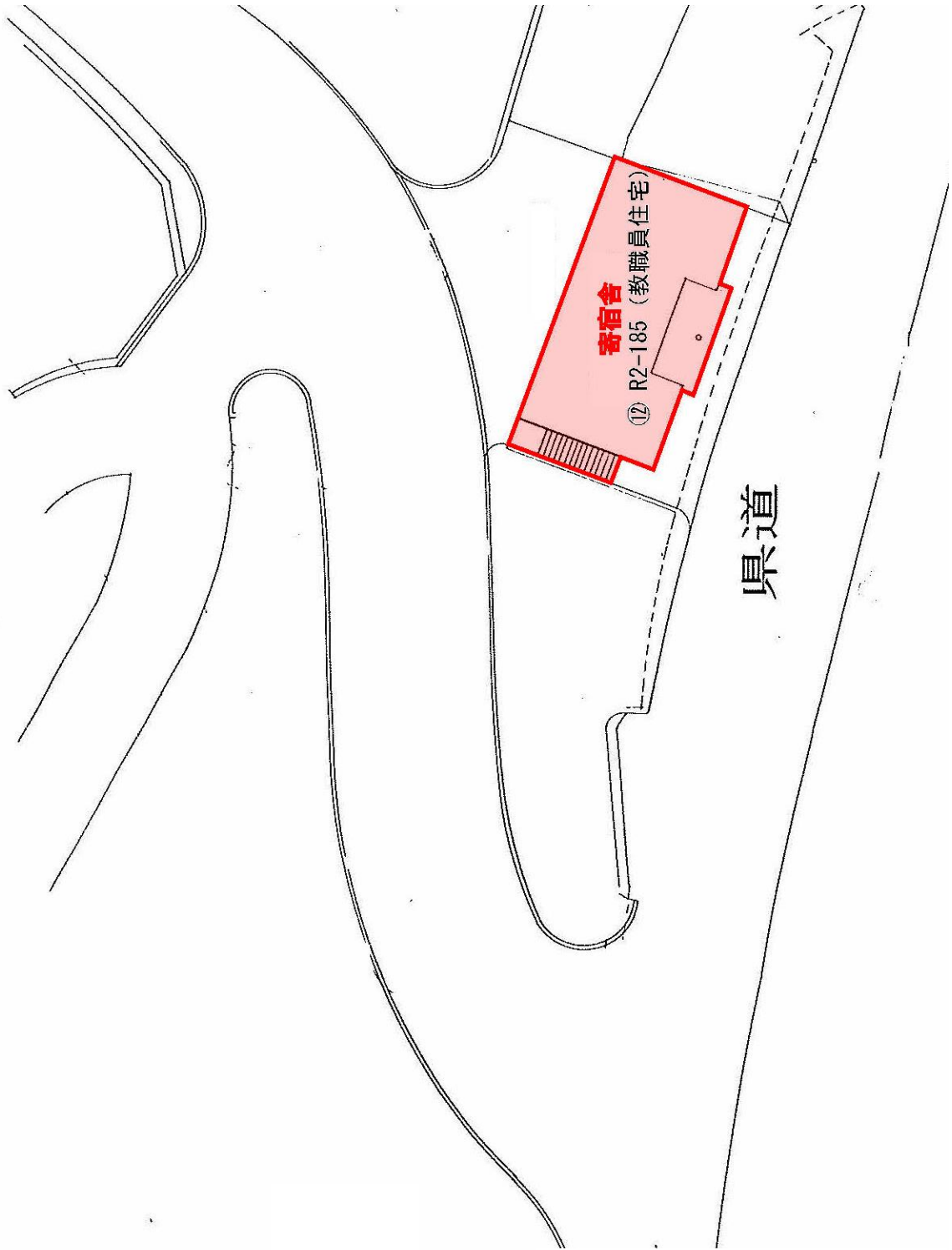


図 学校施設位置図（今庄小学校 寄宿舎） 施設の番号は、14ページの棟番号と整合



構造	
W	木造
S	鉄骨造
R	鉄筋コンクリート造

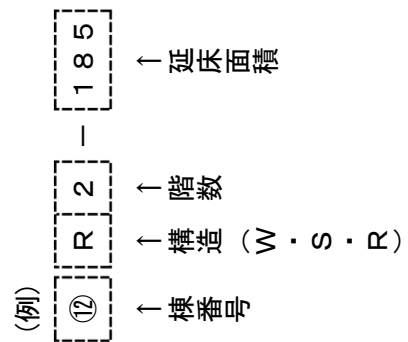
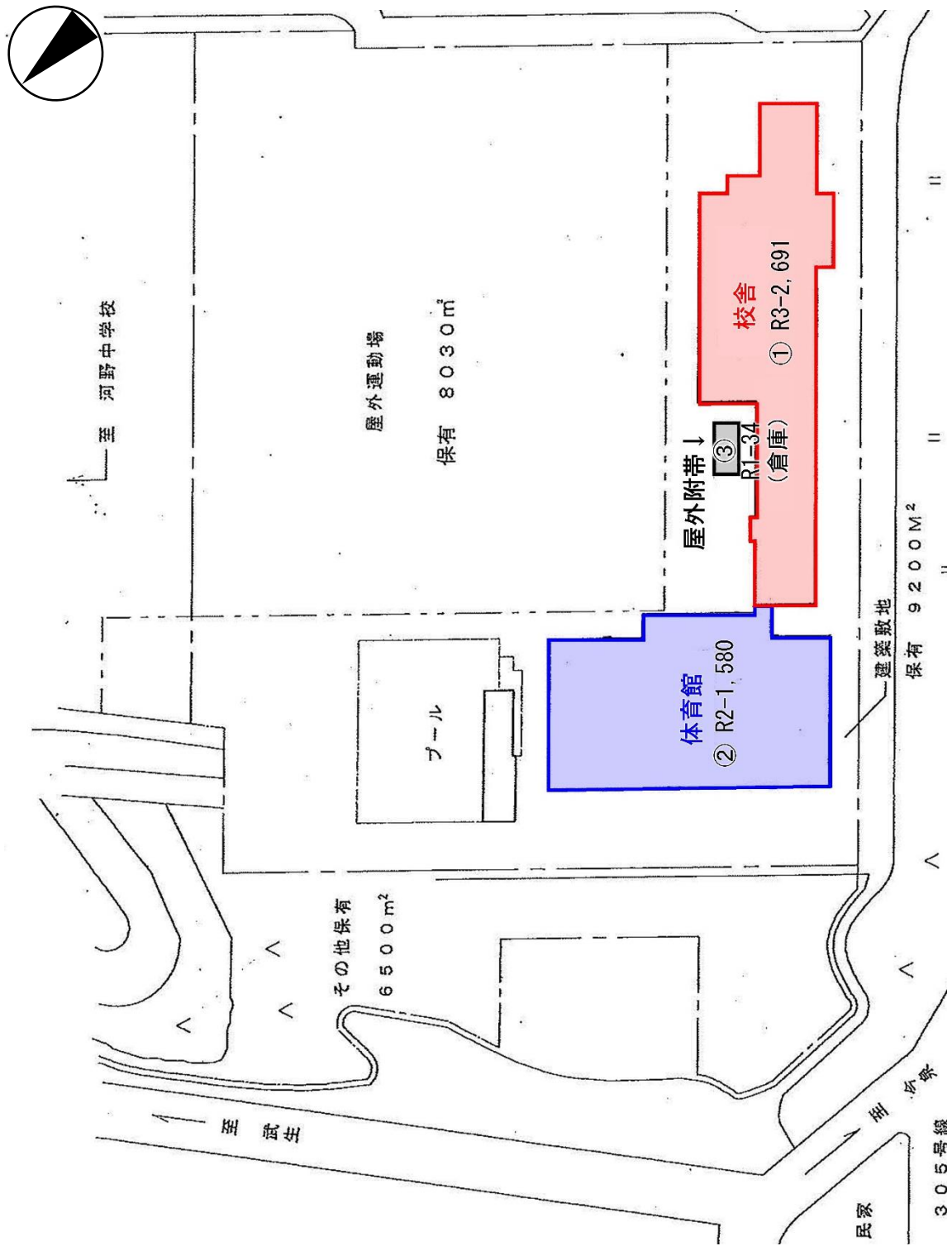


図 学校施設位置図（河野小学校） 施設の番号は、14 ページの棟番号と整合



構造	
W	木造
S	鉄骨造
R	鉄筋コンクリート造

(例) ① R 3 - 2, 691

↑ 棟番号
 ↑ 構造 (W・S・R)
 ↑ 階数
 ↑ 延床面積

図 学校施設位置図 (南条中学校) 施設の番号は、14 ページの棟番号と整合

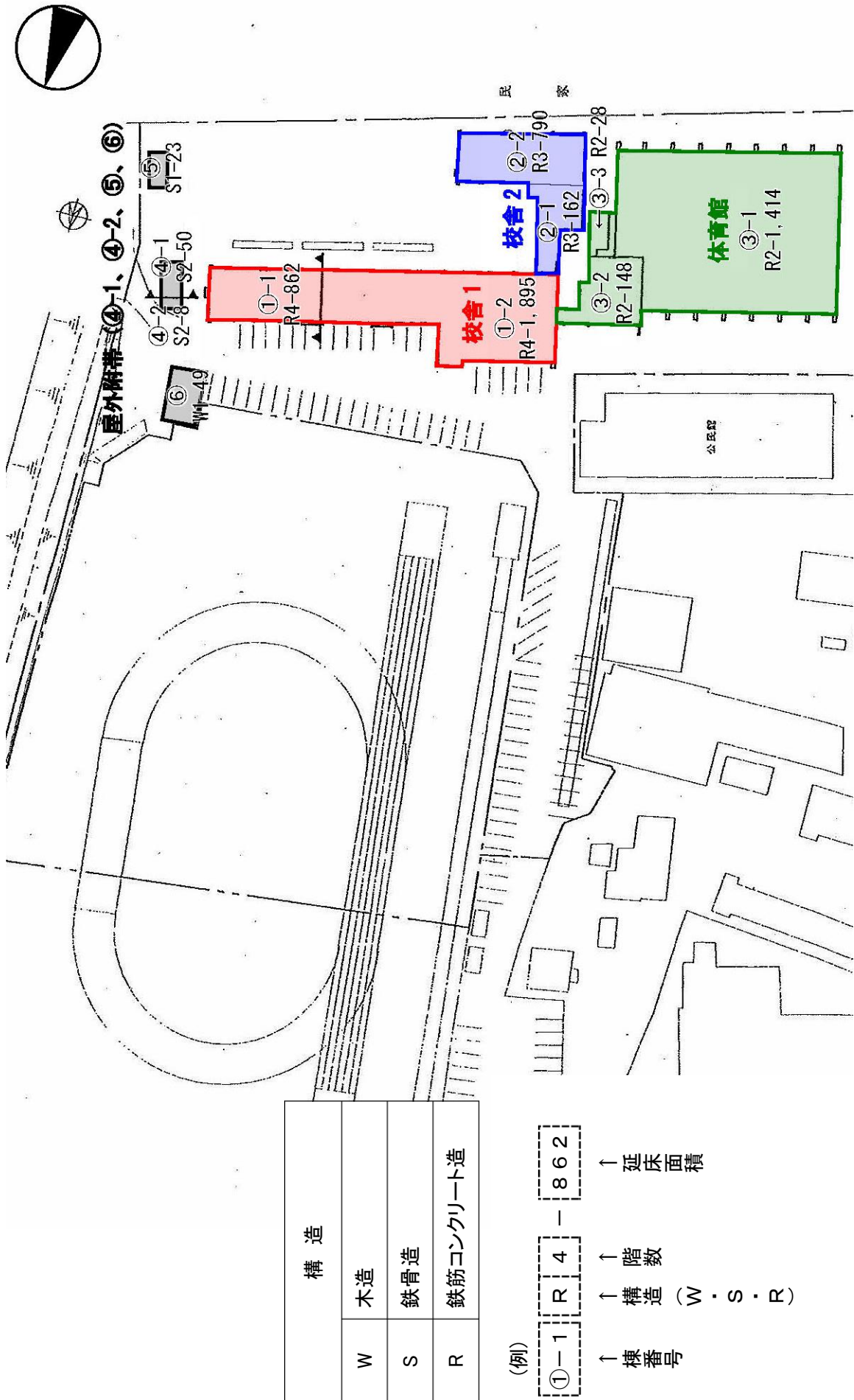
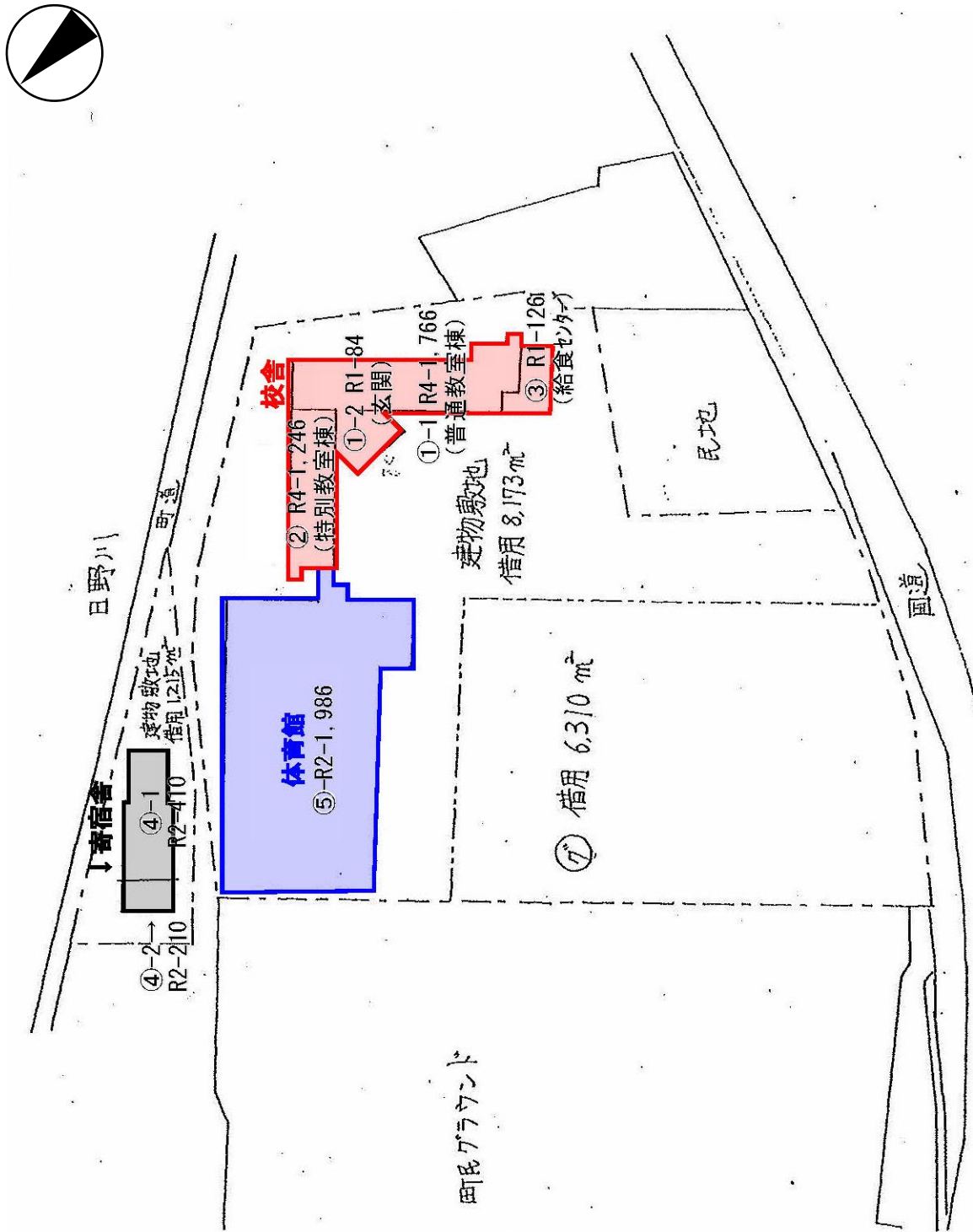


図 学校施設位置図（今庄中学校） 施設の番号は、14ページの棟番号と整合



構造	
W	木造
S	鉄骨造
R	鉄筋コンクリート造

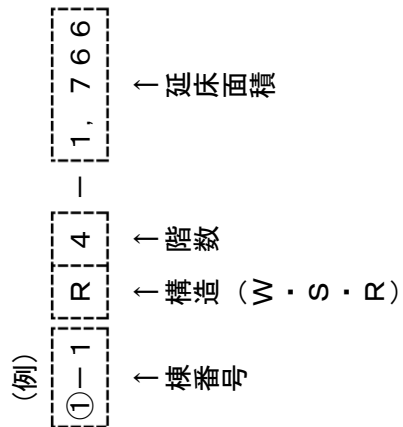
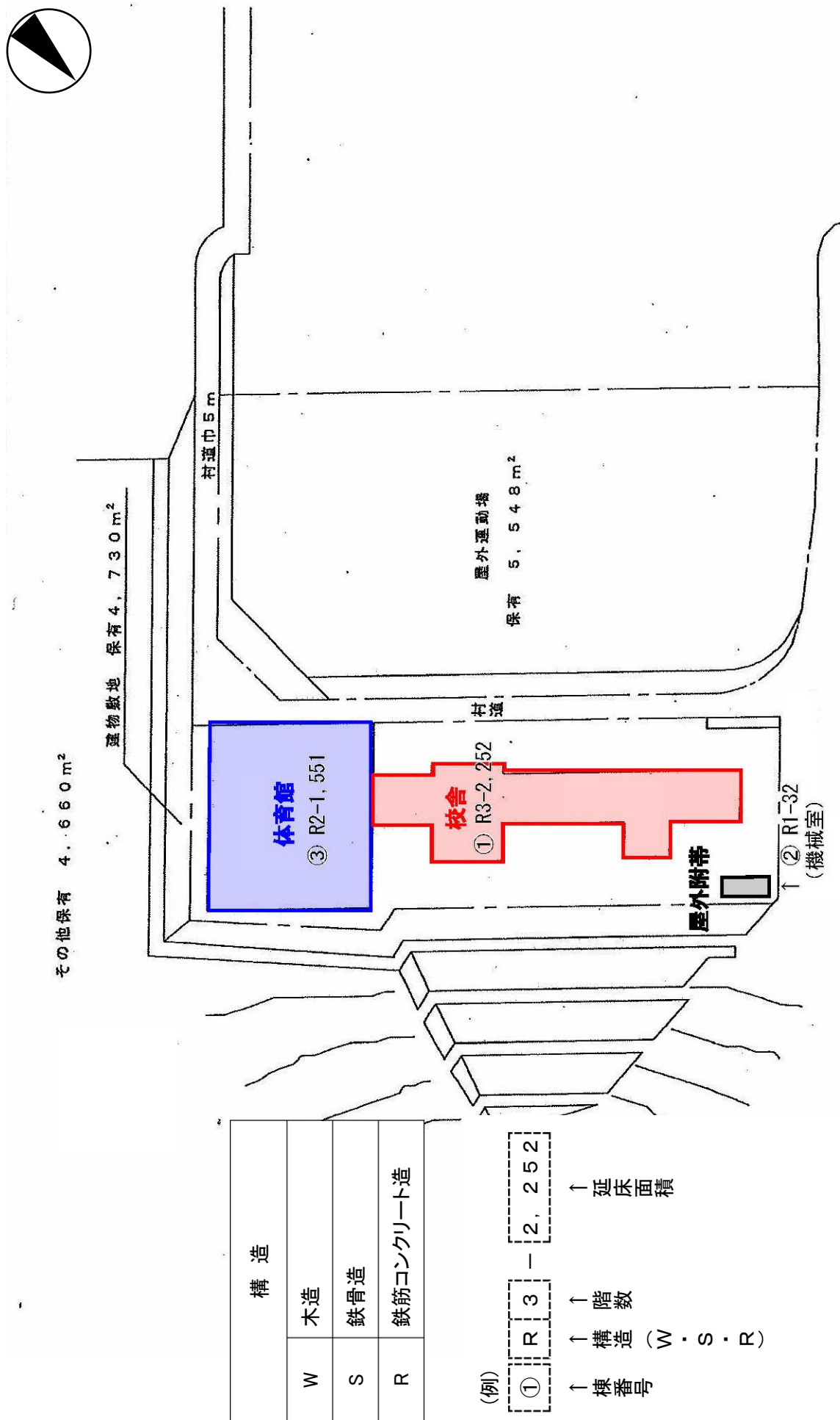
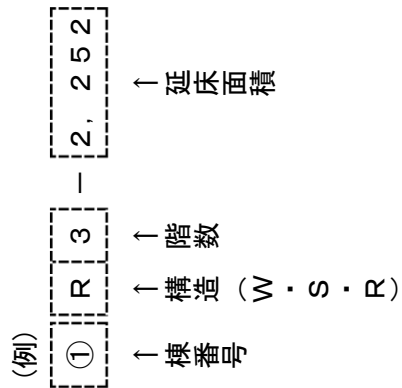


図 学校施設位置図 (河野中学校) 施設の番号は、14 ページの棟番号と整合



構造	
W	木造
S	鉄骨造
R	鉄筋コンクリート造



第3章 学校施設の目指すべき姿

南越前町総合計画や南越前町公共施設等総合管理計画等の内容を踏まえつつ、南越前町教育大綱等に掲げられた重点方針等を基本に学校施設の目指すべき姿を次のように整理します。

整理に際しては、学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き・解説書が示す「学校施設整備基本構想の在り方について」を参照しています。

I. 安全性の高い学校施設

災害対策	・地震や洪水等の災害に強く、防災機能が充実した学校施設
防犯・事故対策	・安全で安心な学校施設

II. 快適性の高い学校施設

快適な学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学習能率の向上に資する快適な学習環境 ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々が誇りや愛着をもつことができる学校 ・バリアフリーに配慮した環境 必然 ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間（自主性を養う空間の充実）
教職員に配慮した環境	・教職員に配慮した空間や教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要なICT環境

III. 学習環境への適応性が高い学校施設

主体性を養う空間の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境（言語活動の充実） ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間
効果的・効率的な施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間 ・調べ学習や習熟度別学習、ティームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間（学校図書館の活用） ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境（学校図書館の活用、言語活動の充実） ・各教科等の授業を充実させるための環境
言語活動の充実	・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間
運動環境の充実	・充実した運動ができる環境
伝統や文化に関する教育の充実	・伝統や文化に関する教育を行うための環境
外国語教育の充実	・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間
学校図書館の活用	・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
キャリア教育・進路指導の充実	・充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境
相談環境の充実	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談員が相談活動を行うための環境

食育の充実	・食育のための空間
特別支援教育の推進	・自閉症、情緒障害又はADHD等のある児童生徒に配慮した学校施設
環境教育の充実	・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール

IV. 環境への適応性が高い学校施設

環境への適応性	・環境を考慮した学校施設（太陽光発電システムの設置など）
---------	------------------------------

V. 地域の拠点となる学校施設

地域の拠点化	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに配慮した環境 ・地域に開かれた学校とするための環境 ・地域の生涯学習、生涯スポーツの拠点となる学校施設（学校図書館や体育館の活用等） ・多様な交流を促進する学校施設
--------	---

第2次南越前町教育大綱（令和2年3月）

基本的な施策の方向性のうち学校施設整備に関連する内容を抜粋

（1）豊かな人間性を育む教育の充実と環境の整備

②「生きる力」を育む学校教育の充実

- ・外国語教育の充実
…学校ALTの配置
- ・不登校や気になる児童生徒への支援の充実
…適切な特別支援教育支援員等の配置、適応指導教室「つばさ」の充実

③安全な教育環境の整備

- ・学校ICT環境整備の推進
…学校ICT環境の計画的整備、情報セキュリティの強靱化対策
- ・学校の適正な配置と管理運営
…小中学校再編の方針に基づく事業の実施
- ・学校施設の整備促進
…体育館照明機器のLED化、空調設備の整備、長寿命化計画に基づく計画的整備

④地域・家庭教育の推進

- ・家庭教育講座の充実、親同士の学び合いの場の提供
…家庭教育講座を通じて親同士の交流や情報交換の場の提供
- …小学校や放課後子ども教室等を通じて保護者間・世代間交流の場の提供

⑤個々のニーズに応じた教育の充実

- ・特別支援教育の周知啓発
…配慮が必要な児童生徒への支援についての理解の促進

⑥ふるさと教育の推進

- ・教育活動サポート人材バンクの充実
…地域資源の伝承、地域の方との交流を推進
- ・子どもたちの交流の推進
…地域資源を生かした町内小中学校の交流と異年齢間交流
- ・ふるさと南越前町の暮らしや食について考える機会の提供
…地域課題を発見・解決する学習、地場産を活かした給食の提供

（2）生涯にわたる学習社会の充実

②生涯スポーツの振興

- ・競技スポーツの推進
…スポーツ協会やスポーツ少年団の活動支援と選手・指導者の育成
- ・体育施設の整備
…スポーツ活動のための環境整備

第4章 学校施設整備の基本的な方針等

1. 学校施設の規模・配置計画等の方針

南越前町公共施設等総合管理計画の「公共施設の管理に関する基本的な考え方」や「施設類型ごとの管理に関する基本的な方針（学校教育系施設）」等を踏まえ、学校施設の長寿命化計画及び規模・配置計画等の方針を次のとおりとします。

南越前町公共施設等総合管理計画

公共施設等の管理に関する基本的な考え方

- ・将来の人口推移や財政状況から **今後も現状の全ての公共施設等を維持することが困難**な状況です。
- ・そのため、公共施設等の管理に関する方針は、**公共施設等の長寿命化と施設保有量の最適化**を念頭に置くことを基本とし、老朽化した公共施設等の**予防保全による長寿命化や、施設の統廃合、機能の複合化や余剰施設の解体・廃止等による総量の抑制**を図ることで**更新費用を縮減**し、次世代に過度の負担とならないようにしていくことが重要です。

公共施設に関する原則

計画的な保全による施設の活用

- ・施設劣化の認識により実施される修繕や更新といった事後保全を改め、**計画的に修繕や更新を実施する予防保全に取り組む**ことで、**修繕費用の低減・平準化や施設の長寿命化**を図りつつ**既存施設の有効活用**を図ります。

新規整備の抑制や費用対効果を考慮した更新

- ・予防保全による施設の長寿命化や既存施設の有効活用を図ることで、**新規整備を抑制**するとともに、**費用対効果を考慮して施設の更新**を行います。新規整備時は、本計画に示す方針に則り実施することとします。

施設の複合化や効率的な運営の推進

- ・**施設の複合化**や、全町的な視点による**施設の多機能化（集約・複合）、用途の転換、余剰施設の廃止**等本町に適した施設運用方法を検討し、今後の財政状況や、人口の減少、年代構成の変化に伴う住民ニーズの変化等に合わせて、機能を維持・向上しつつ**施設総量の縮減**を図るとともに、**管理運営についても効率化**を図ります。

施設類型ごとの管理に関する基本的な方針（学校教育系施設）

- ・維持管理に当たっては、**予防保全的管理による施設の長寿命化**を図ることで、**計画的かつ効率的な管理**に努めていきます。
- ・施設のあり方については、良好で活力ある教育環境の保持・充実のため、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」及び学校再編に係る住民アンケートの結果を参考に、**保護者や地域住民、学識経験者からなる小中学校再編検討委員会**で協議を重ね、**学校再編の検討**を行っていきます。また、検討結果や進捗にあわせて、地域の中核的な施設であることも考慮しながら、**施設の利活用についても検討**を行います。

学校施設の長寿命化計画 及び規模・配置計画等の方針

- ・現在の小中学校は、南越前町公共施設等総合管理計画の「公共施設等の管理に関する基本的な考え方」や「施設類型ごとの管理に関する基本的な方針」等を踏まえ、**定期的な点検調査による予防保全型の維持管理**や、**計画的な長寿命化改修、施設の統廃合等**により、**施設総量を抑制し、財政負担の縮減と平準化**を図ります。
- ・特に**中学校**については、「南越前町の学校教育のあり方に関する提言書」において、**「原則、学校の統廃合を検討する」と**位置づけられたことから、学校再編に係る地区別懇談会等を経て、**令和4年4月に3つの中学校を1つに統合（南越前中学校）**することを決定しました。
- ・具体的には、現在の南条中学校の施設を利用し、当該施設の改修により、安全安心で快適な学校施設を整備していくものとします。
- ・一方、**小学校**は、**現時点ではすべて存続**としますが、南条小学校を除く3の小学校は、過少規模校や小規模校となっており、今後は更なる規模の縮小が想定されます。
- ・このため、「南越前町の学校教育のあり方に関する提言書」の方針を踏まえ、**複式学級が続くと見込まれる小学校や小規模校については、地域の合意等を得たうえで、統廃合を検討**していくものとします。
- ・このような学校規模の適正化に関しては、**適正規模の確保や全町的なバランス**を考慮しつつ、**通学区域の変更**（地域の分割）や**隣接する学校の統廃合**により進めるものとします。
- ・統廃合する場合には、通学距離が長くなることが想定されることから、自然環境や交通事情を考慮し、**安全確保に配慮した通学支援（スクールバスの運行等）**について検討していきます。

2. 改修等の基本的な方針

(1) 長寿命化の方針

中長期的な維持・建替え等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現するため、次に示すような建物を除き、建替えより工事費が安価で工期が短く、廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない長寿命化改修を実施することを基本とします。

【長寿命化改修に適さない可能性のある建物】

- ・鉄筋コンクリートの劣化が激しいなど、改修に多額の費用が必要となるため、建替えしたほうが安価となる建物
- ・鉄骨造、木造等で、腐食や劣化の進行が著しい建物 など

これらの建物は、計画策定段階において「建替え」として試算しますが、工事実施段階においては、躯体の詳細な調査を行うとともに、経済性や教育機能等の観点も含めて、長寿命化改修の可否について、総合的に判断します。

(2) 目標耐用年数、改修周期の設定

① 目標耐用年数の設定

長寿命化の推進による目標耐用年数は、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」を基に、構造別に次のように設定します。

【鉄筋コンクリート造】	75年
【鉄骨造】	60年
【木造】	60年

参考 鉄筋コンクリート造の目標耐用年数の算定

算定式: 目標耐用年数

$$Y = YS \times A \times B \times C \times D \times E \times F \times G \times H = 60 \times 1.0 \times 1.0 \times 1.0 \times 0.56 \times 1.5 \times 1.5 \times 1.0 \times 1.0 = 75.6$$

≒ 75 年

YS: 標準耐用年数(日本建築学会による学校施設の標準耐用年数は 60 年)

→ 60 年

A: コンクリートの種類(普通コンクリート=1.0、軽量コンクリート=0.95)

→ 設計図書より 1.0

B: セメントの種類(ポルトランドセメント=1.0、高炉セメント A=0.85、高炉セメント B=0.8)

→ 設計図書より 1.0

C: 水セメント比(65%=1.0、60%=1.2、55%=1.5)

→ 安全をみて 1.0

D: かぶり厚さ(20mm=0.25、30mm=0.56、40mm=1.0、50mm=1.56)

→ 壁 30mm、柱・梁 30mm より 0.56

E: 外壁仕上げ材(無=0.5、複層塗材=1.0、モルタル 15mm 以上=1.5、タイル=3.0)

→ モルタル 15mm 以上が多く、コンクリート打放しについては増し打ち 20mm しているので 1.5

F: コンクリートの施工状況(通常の施工=1.0、入念な施工=1.5)

→ 工事監理者配置による適切な現場監理を実施していることにより 1.5

G: 建物維持保全の程度(劣化後も補修しない=0.5、劣化部分を補修する=1.0)

→ 建物を予防保全および事後保全を実施していくことにより 1.0

H: 地域(一般=1.0、凍結融解を受ける地域=0.9、海岸=0.8)

→ 一般により 1.0(要確認)

参考 鉄骨造・木造の目標耐用年数の算定

表 建築物全体の望ましい目標耐用年数の級

用途	構造種別	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		重量鉄骨造		木造
		高品質 の場合	普通の品質 の場合	高品質 の場合	普通の品質 の場合	
学校・官庁		Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y60以上
住宅・事務所・病院		Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上
店舗・旅館・ホテル		Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上
工場		Y40以上	Y25以上	Y40以上	Y25以上	Y25以上

表 目標耐用年数の級の区分

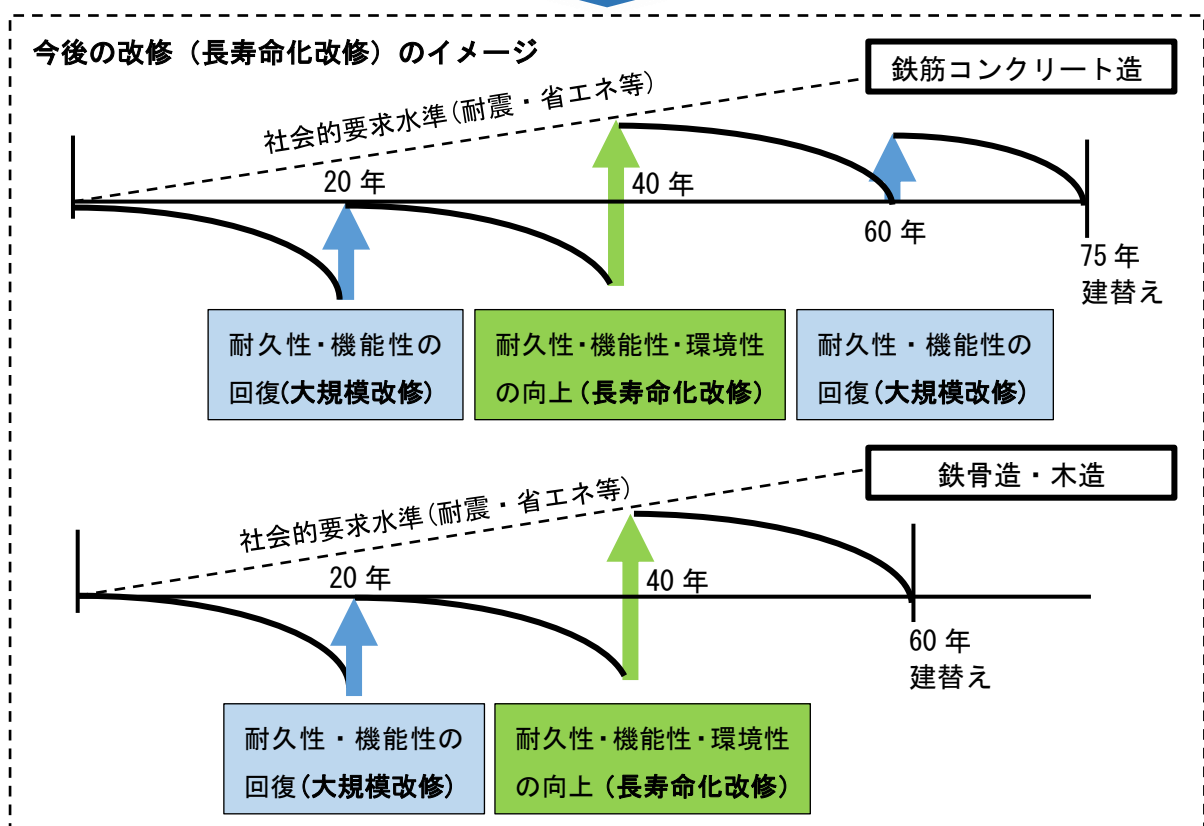
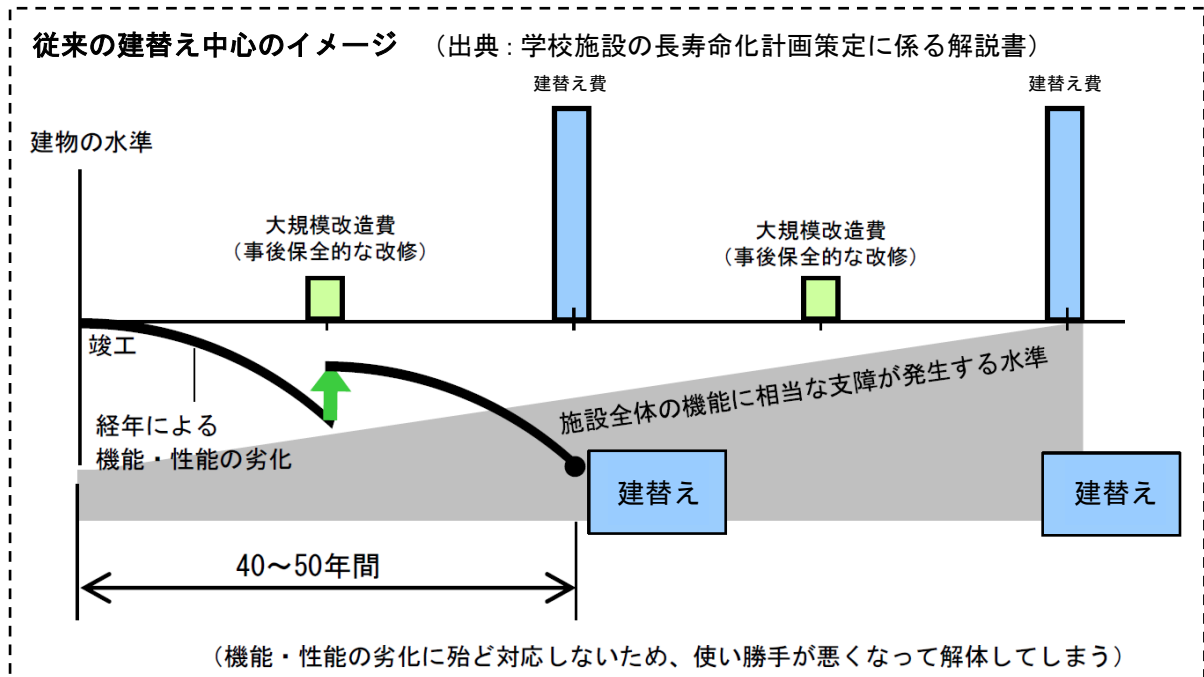
級	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y150	150年	120～200年	120年
Y100	100年	80～100年	80年
Y60	60年	50～80年	50年
Y40	40年	30～50年	30年
Y25	25年	20～30年	20年

出典：建築物の耐久計画に関する考え方(日本建築学会)

② 改修周期の設定

全国的にみて、全体の約9割を占める鉄筋コンクリート造学校施設の建替えまでの年数は、概ね40年程度となっています。鉄筋コンクリート造学校施設の法定耐用年数は47年となっていますが、物理的な耐用年数はこれより長く、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度利用することが可能です。

このため、長寿命化の方針に従い、長寿命化改修が適切と判断される建物については、先に定めた目標耐用年数の実現に向けて、下図に示す改修周期により、長寿命化改修や大規模改修を実施していくことを基本とします。



第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1. 改修等の整備水準

(1) 改修等に係る基本方針（長寿命化改修と大規模改修の基本方針）

長寿命化改修や大規模改修については、次の方針に基づき「耐久性」や「機能」等の維持・向上を図ります。

■長寿命化改修の方針案（40年以上経過した建物）

- ・建物を目標耐用年数まで利用するために、各部位のグレードアップや設備を更新して耐久性を高める
- ・施設を長く利用できるよう、室内環境の向上、省エネルギー化、ユニバーサルデザイン等を検討する
- ・時代と共に少子高齢化等の社会情勢やニーズの変化に対応するために、施設機能の複合化・学校現場のICT化など、新たに求められる機能や質の向上を図る

長寿命化のポイント

1. 耐久性の向上

2. 施設環境・質の向上

3. 新たな機能・複合化

具体的内容例（大規模改修+α）

【耐久性向上】

- ・中性化対策・鉄筋の腐食対策・かぶり厚確保のうち、いずれか一つ以上、屋根・外壁仕上げ・塗装仕様のグレードアップ、電気・給排水管等ライフラインの更新^{*}、今後30年以上利用できる内装の更新等^{*} → **長寿命化改良事業の補助条件となる**

【施設環境・質の向上】

- ・屋根・外壁の高断熱化やサッシの高断熱化結露対策、日射遮蔽、心理的室内環境の向上（木質化等）、エレベーターの設置（特別支援学級対応） → **必要に応じて行う**

【新たな機能・複合化】

- ・ICT機能やWeb遠隔授業の充実、多目的・オープンスペースの設置、図書室とコンピューター室との一体化、地域への学校開放に対応 → **必要に応じて行う**

※既存が30年以上使用できるものとして判断した部分については、実施しなくてよい場合がある

■大規模改修の方針案

- ・建物の躯体と機能を保持するために、必要な部位や設備などについて改修する
- ・機能向上については、可能な範囲で行う
- ・内部改修は劣化が激しい部分や緊急を要する部分を行い、大規模な内部改修は行わない

具体的内容例

【耐久性保持】

- ・躯体のクラック・欠損対策、防水・外壁仕上げ・シーリング等の外部老朽化改修（標準仕様）

【機能保持・向上】

- ・寿命によるエアコンや照明機器の更新(LED)、給排水・防災避難設備の老朽化改修

【事後保全】

- ・安全衛生上緊急を要する部分の改修。内部については劣化・損傷が著しく美観上機能上問題（床：つまずきの恐れ、天井：雨漏れ跡が目立つなど）となる部分の改修

(2) 長寿命化改修の整備水準

長寿命化改修の整備水準は、「耐久性の向上」、「施設環境・質の向上」、「新たな機能・複合化」といった視点から、次の内容を基本とします。

表 「耐久性の向上」に資する整備水準

種別	対策内容	具体的手法例
コンクリート躯体 耐久性	中性化・塩害対策	アルカリ性付与剤塗布によりアルカリ性回復させ、浸透性防錆剤を塗布
	断面欠損・露筋錆	コンクリートを鉄筋の裏まで研り、錆落とし、防錆処理とポリマーセメントモルタルにより断面欠損復旧
	ひび割れ	0.2mm以下：シーリング被覆 0.2～0.8mm：エポキシ樹脂等低圧注入 0.8mm以上：Uカットシーリング
外壁・軒裏の劣化	塗装劣化	防水型複層塗材E(フッ素樹脂上塗)の高耐久性吹付材
	被覆による改修	ガルバニウム鋼板(開口部周り水切りと屋上笠木の改修を考慮)
	タイル・モルタルの浮き	アンカーピンニング工法もしくはタイル等張替
	打ち出し仕上げ面の清掃・保護	高圧洗浄とショットブラストにて汚れ・白華落とし、補修面下地モルタル薄塗、フッ素系水性保護クリア塗料
	金属面の錆・塗装劣化改修	DP塗(フッ素樹脂塗装)の高耐久性塗装
	軒裏 金属成形板改修	アルミスバンドレル張
	軒裏 ケイカル板改修	ケイカル板の上DP塗
	開口部周り、躯体シーリングの劣化	シーリング改修
屋上防水の劣化	アスファルト防水改修	改質アスファルト防水とし既存防水層の上からかぶせ工法とする。高反射トップコート塗布(10年毎に塗替) 改質アスファルト防水とし既存防水層は撤去する。高反射トップコート塗布(10年毎に塗替)
	アスファルト防水改修(断熱仕様)	改質アスファルト防水とし既存防水層は撤去する。外断熱仕様高反射トップコート塗布(10年毎に塗替)
	塩ビシート防水改修	高耐久性塩ビシート2.0m機械固定工法(軽歩行)とし、既存露出防水は撤去する(押えコンの場合はプライマー処理等) 塩ビシート1.5m機械固定工法(軽歩行)とし、既存露出防水は撤去する(押えコンの場合はプライマー処理等)
	ウレタン塗膜防水	既存塗膜防水の上(付着状況が良好な場合に限る)ウレタン塗膜防水重ね塗り(下地メッシュ、プライマー処理等)
屋根金物の劣化	アルミ製笠木の改修	アルミ製笠木の更新(防水改修時に更新するケースあり)
	塩ビ縦樋の塗装と更新	塩ビ製縦樋(SOP塗は10年毎塗装)
勾配屋根の劣化	アスファルトシングル屋根改修	高耐久性アスファルトシングルをかぶせ葺き
	鋼板屋根改修	既存金属屋根の上にDP塗(フッ素樹脂塗装)(鋼板の劣化の程度が少なく、葺替えの予算が無い場合)
		既存金属屋根の上にウレタン塗膜防水スプレー工法を被覆(鋼板の劣化が多くみられ、葺替えの予算が無い場合)
		高耐久性のガルバニウム鋼板に葺き替え 高耐久性のガルバニウム鋼板カバー工法 高耐久性のガルバニウム鋼板カバー工法 断熱材充填
設備配管の劣化 (※建築工事は別途)	鋼管系の劣化	排水管：VP管に更新 給水管：HIVP管に更新
	ガス管の劣化	屋外：PE管に更新 屋内：SGP管に更新
	維持管理	メンテナンスがしやすい配線・配管ルートにて更新
設備機器の劣化 (※建築工事は別途)	受変電設備機器	高圧受変電設備機器(屋内型)の更新 高圧受変電設備機器(屋外型)の更新
	自家発電設備機器(防災避難)	非常用自家発電機器の更新
	自火報設備機器(防災避難)	感知器、受信機、発信機の更新
	音響設備機器	アンプ、スピーカー、マイクの更新
	タンク類	受水槽、給水、給湯の更新
	ポンプ類(給水・防災避難)	給水、消火栓

表 「施設環境・質の向上」に資する整備水準

種別	対策内容	具体的手法例
室内環境の向上	断熱性能の向上	屋上：改質アスファルト防水とし既存防水層は撤去する 外断熱仕様 高反射トップコート塗布
		金属勾配屋根：高耐久性のガルバニウム鋼板カバー工法 断熱材充填
		壁面：外断熱化（外壁下地、開口部水切り、笠木等の改修を考慮）荷重確認必要
	開口部の断熱・結露対策	単板ガラスを複層ガラスに交換（建具枠と障子枠は交換しないため、老朽化改善にはならない）
		アルミサッシを断熱サッシ（Low-Eガラス）に改修
	日射遮蔽・太陽光反射	ライトシェルフ兼庇の設置
	室内照度を上げる	勾配天井にて外からの光を取り入れたり、白系で反射率の高い仕上げ材
	防音性能	天井を岩綿吸音板とし壁面を吸音ボードとする
	通風の確保・冷暖房区画	教室と廊下の間仕切りを高窓付パーテーションとして廊下側からの通気を確保、冷暖房区画
心理的環境の向上（内装木質化）	床仕上げをフローリングに改修	
	壁や腰壁を木張り仕上げに改修	
空調機器の導入	暖房能力の目安： クラスルーム16kw/室 特別教室20kw/室	
省エネルギー化	自然風の確保	階段室の通風経路を利用したセンサー付換気窓システム
	自然エネルギーの利用	太陽光発電
	エネルギー効率機器	LED照明機器の導入、（階段・便所は人感センサー付） 空調機器（EHP等）の更新・新設（可能であれば吸収式冷温水発生機→EHPに変更）
生活機能を改善	トイレの充実	利用しやすくきれいなトイレ（トイレの床ドライ化）、人感センサー付小便器、節水型便器、自動水洗の導入
	身障者等への配慮	スロープや多目的トイレの設置

表 「新たな機能・複合化」に資する整備水準

種別	対策内容	取組内容
学習機能の充実	空き教室の活用	グループ学習や発表の場や展示などのオープンスペースを普通教室に隣接
		多目的に利用できるランチルームを整備
	図書館機能の充実	図書室を利用しやすい位置に配置転換して活発に利用させる パソコンを気楽に利用して調べものをしたり、学校で宿題できる場を設ける 地域開放を想定する
少子化対策	空き教室のコンバージョン	地域ニーズに応じた施設の整備することにより、各施設整備費や運営管理費を削減させる
	特別教室の活用	地域に開放された施設の整備することにより、児童と高齢者等との世代間交流を創出させる
柔軟性・可変性の確保	改修・増築に対応しやすくする	将来の学校形態・地域利用者のニーズの変化に応じた機能性向上や用途変更

2. 維持管理の項目・手法等

学校施設の長寿命化を適切に進めるためには、計画的な改修等に加え、日常的、定期的に施設の点検や清掃、情報管理を行うことが重要です。

日常的、定期的に維持管理を行うことで、建物の劣化状況をリアルタイムで詳細に把握することが可能となり、状況に応じた対策が可能となります。

表 維持管理の項目・手法等の例

項目		内容	頻度	主な担当
日常点検		機器及び設備について、異常の有無、兆候を点検	毎日	施設管理者
定期点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を点検	1週、1ヶ月、半年、1年等の周期を設定	施設管理者 施設設置者
	法定点検	建築基準法第12条に基づく点検	3年周期	専門業者
臨時点検		日常、定期点検以外に臨時的に実施する点検	随時	施設管理者 施設設置者 専門業者
清掃		快適な環境を維持しながら建物の仕上材や機器の寿命を延ばすため、塵や汚れを除去	各点検に合わせて随時実施	施設管理者 専門業者

第6章 長寿命化の実施計画

1. 改修等の優先順位付けと実施計画

(1) 改修等の優先順位

改修等の優先順位は、「第2章の2. 学校施設の老朽化状況の実態」で評価した、各施設の健全度と経過年数を点数化し、判定します。
優先順位の判定フローは、概ね次のとおりです。

部位別健全度評価（点数化）

ステップ1 現場調査・点検（健全度評価）

対象施設について、現場で調査・点検を行い、屋上・屋根、外壁、内部仕上、電気・給排水・空調設備、屋外付帯の部位ごとに、健全度を4段階（A～D）で評価

表 現場調査・点検における健全度判定基準

評価	基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
D	早急な対応が必要 (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し、設備運営に支障を与えている)等

ステップ2 部位別健全度判定

ステップ1の現場調査・点検結果を基に、次の基準に従い、部位別の健全度を5段階（A, B, C-, C, D）で評価

表 部位別健全度判定基準

部位	健全度評価	劣化状況	部位別健全度判定
屋根・外壁・外部躯体	D	1か所以上みられる	D
	C (緊急度高)	1か所以上みられる	C
	C (緊急度中)	1か所以上みられる	C-
	B	1か所以上みられる	B
上記以外の外部・内部・設備・屋外付帯	D	1か所以上みられる	D
	C (緊急度高)	複数もしくは広範囲	C
		1か所もしくは部分的範囲	C-
	C (緊急度中)	複数もしくは広範囲	C-
		1か所もしくは部分的範囲	B
	B	1か所以上みられる	B

ステップ3 部位別健全度評価（点数化）

ステップ2の部位別健全度判定結果を基に、次の基準に従い点数化
※健全度点数 = Σ 部位ごとの健全度評価点 × 部位ごとの重要度係数
 ・各部位の健全度点数の合計値を棟ごとに偏差値で評価

表 部位別健全度評価点

評価	評価点
A 評価	10
B 評価	40
C- 評価	60
C 評価	70
D 評価	100

表 各部位の重要度係数

部位	係数	判断基準
高		
屋根	1.00	安全性・構造への影響が大きい
外壁	1.00	
外部躯体	1.00	
外部・雑金属	0.50	予防保全(計画保全)を行うべき
外部建具	0.50	
外部床	0.50	
内部建具	0.20	事後保全(適正な維持管理)を行うべき
内部床仕上	0.20	
内部壁仕上	0.20	
内部天井仕上	0.20	
内部・雑金属	0.20	
電気設備	0.50	予防保全(計画保全)を行うべき
給排水衛生設備	0.25	事後保全(適正な維持管理)を行うべき
空調設備	0.50	予防保全(計画保全)を行うべき
低		事後保全(適正な維持管理)を行うべき

経過年数評価（点数化）

対象施設の経過年数を次の基準に従い点数化
※経過年数評価点 = 経過年数
 ・ただし、過去20年間に屋根と外壁の両方について大規模改修を行っている場合は一律に-15点
 ・経過年数評価点を棟ごとに偏差値で評価

優先度判定

健全度評価（偏差値）と経過年数評価（偏差値）の合計値で各棟の総合順位を決定

表 優先度判定表

優先度	総合順位	長寿命化及び大規模改修の実施期間
優先度1	1～6	2021～2024年の4年間
優先度2	7～12	2025～2027年の3年間
優先度3	13～18	2028～2030年の4年間
優先度4	19～25	2031年以降

表 優先度判定一覧表 2

No	施設名	建物名	棟番号	構造階数	延床面積 (㎡)	建築年度			建築										設備			劣化度総合評価										経過年評価			総合順位	優先度											
						西暦	和暦	築年数	屋根	外壁	外部躯体	外部・雑金属	外部建具	外部床	内部建具	内部仕上床	内部仕上壁	内部仕上天井	内部・雑金属	電気	給排水衛生	空調換気	屋外附帯	1.0		0.5			0.2					0.5			0.3	0.5	0.3	劣化度総合評価			経過年評価				
																								屋根	外壁	外部躯体	外部・雑金属	外部建具	外部床	内部建具	内部仕上床	内部仕上壁	内部仕上天井							内部・雑金属	電気	給排水衛生	空調換気	屋外附帯	屋根	外壁	外部躯体
15	河野小学校	校舎	001	RC3	2,691.00	1972	S47	48	B	C-	B	B	B	C-	B	C-	C-	A	B	B	A	B	C-	40	60	40	40	40	60	40	60	60	10	40	40	10	40	60	294.5	50.50	14	48	64.45	1	8	2	
16	河野小学校	体育館	002	RC2	1,580.00	2007	H19	13	B	C-	C-	B	C-	A	B	B	B	A	A	B	A	A	C-	40	60	60	40	60	10	40	40	40	10	10	40	10	10	60	270.5	47.93	15	13	38.54	21	16	3	
17	南条中学校	校舎1	001-1、001-2	RC4	2,757.00	1975	S50	45	D	C	D	C-	D	C-	B	C-	C-	D	C-	C	C-	C-	C-	100	70	100	60	100	60	40	60	60	100	60	70	60	60	70	524.0	75.12	1	45	62.23	3	1	1	
18	南条中学校	校舎2	002-1、002-2	RC3	952.00	1974	S49	46	C-	C-	D	C-	A	A	B	C	C-	B	B	B	A	C-	C	60	60	100	60	10	10	40	70	60	40	40	40	10	60	70	362.5	57.80	6	46	62.97	2	3	1	
19	南条中学校	体育館	003-1、003-2、003-3	RC2	1,590.00	1977	S52	43	C	C	A	C-	B	B	B	C	B	C-	C-	B	B	B	C-	70	70	10	60	40	40	40	70	40	60	60	40	40	40	40	40	324.0	53.67	9	43	60.75	4	9	2
20	今庄中学校	校舎	001-1、001-2、002、003	RC4	3,222.00	1980	S55	40	D	C	C-	C-	C-	B	B	C-	C	C-	B	C-	C-	C	C-	100	70	60	60	60	40	40	60	70	60	40	60	60	70	444.0	66.54	2	40	58.53	7	2	1		
21	今庄中学校	体育館	005	RC2	2,398.00	1981	S56	39	C	C	C	C-	C-	C-	B	B	B	B	B	B	B	B	C-	70	70	70	60	60	60	40	40	40	40	40	40	40	60	390.0	60.75	3	39	57.79	11	4	1		
22	今庄中学校	寄宿舎	004-1、004-2	RC2	620.00	1980	S55	40	D	C-	B	B	B	C-	A	C-	C	D	B	A	C-	C-	C-	100	60	40	40	40	60	10	60	70	100	40	10	60	60	60	376.0	59.24	5	40	58.53	7	6	1	
23	河野中学校	校舎	001	RC3	2,252.00	1980	S55	40	D	C	B	B	B	C-	B	B	C-	B	C-	B	B	B	C-	100	70	40	40	40	60	40	40	60	40	60	40	40	40	40	60	378.0	59.46	4	40	58.53	7	5	1
24	河野中学校	体育館	003	RC2	1,551.00	1980	S55	40	C	C	A	C-	C-	B	B	C-	C-	B	B	A	A	B	C-	70	70	10	60	60	40	40	60	60	40	40	10	10	40	60	305.5	51.68	12	40	58.53	7	11	2	
25	河野給食センター	給食センター	1	RC1	278.00	1983	S58	37	C	C	B	C-	A	B	B	C-	C-	B	A	B	A	B	C-	70	70	40	60	10	40	40	60	60	40	10	40	10	40	60	319.5	53.18	10	37	56.31	12	12	2	

(2) 改修等の実施計画

① 直近5年間の施設別整備計画

令和3年度(2021年度)から令和7年度(2025年度)の直近5年間で、優先度判定を「1」とした施設を基本に、長寿命化改修や大規模改修を実施します。

南条中学校は、優先度が高く、統合後の中学校として活用していくことから、早期に改修等を行うものとします。

一方、今庄中学校(校舎、体育館、寄宿舎)や河野中学校(校舎)は、優先度が高いものの、令和4年度に、現在の南条中学校の施設を利用し、1つの中学校に統合する予定であることから、長寿命化改修は行わず、従来の耐用年数(60年)を踏まえた必要な時期に大規模改修を行うものとします。

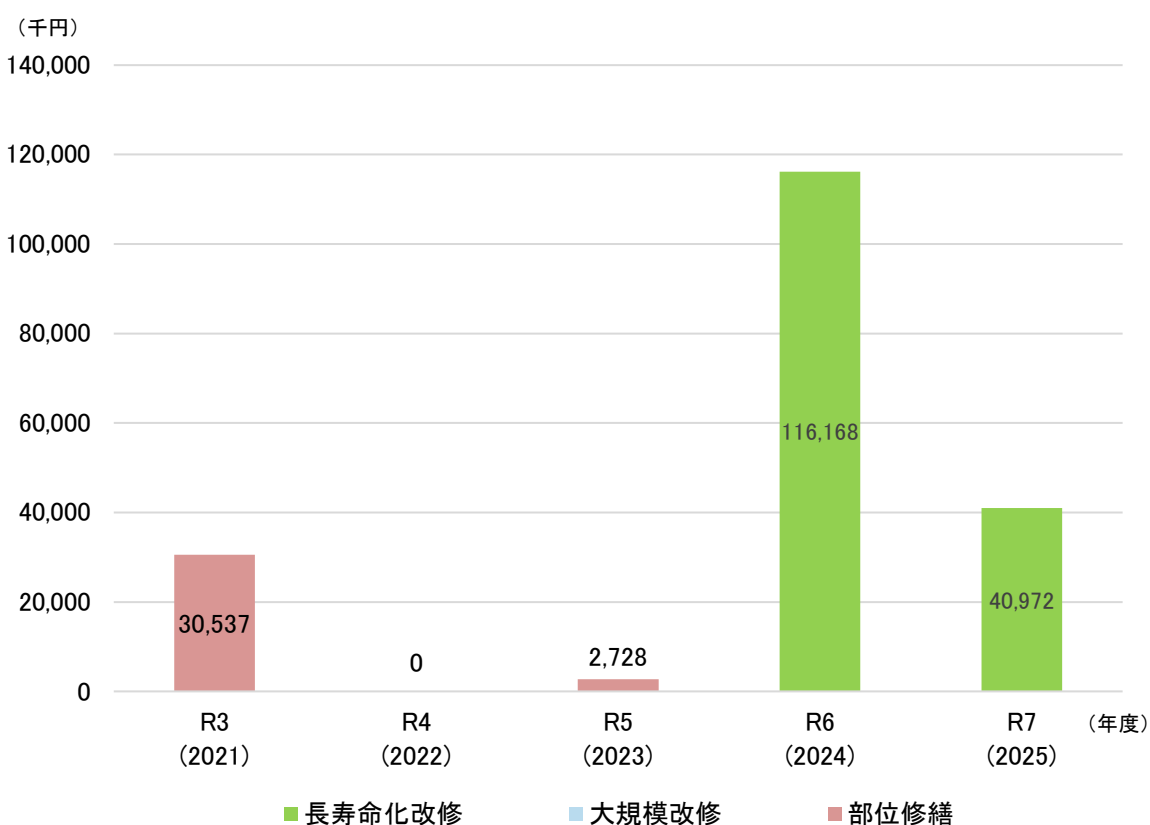
表 直近5年間の学校施設別・工種別整備計画

(単位:千円)

学校施設	和暦 西暦	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
南条小学校				2,728 体育館		
今庄小学校		712 校舎等				
南条中学校		29,825 校舎等			116,168 校舎等	40,972 体育館
合計		30,537		2,728	116,168	40,972

■長寿命化改修 ■部位修繕

図 直近5年間の工種別・年度別整備計画



(3) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

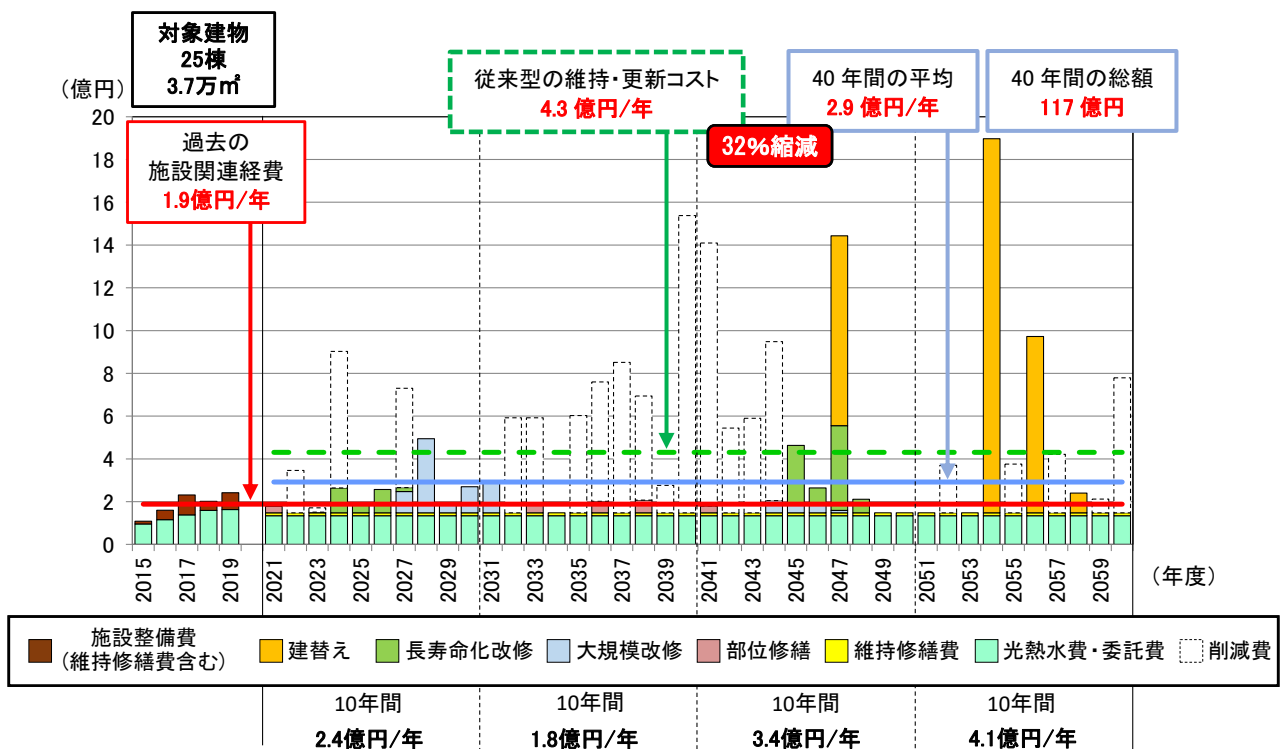
① 今後40年間の維持・更新コスト

施設の維持・更新については、中心の従来型管理からの転換を図り、大規模改修に加え、計画的な長寿命化改修を実施した場合、今後40年間のコストは、総額で約117億円、平均約2.9億円/年となります。

これは、従来型の維持・更新コスト（総額約172億円、平均約4.3億円/年）対して、約32%の削減（総額約55億円、平均約1.4億円/年の削減）となります。

なお、この事業費には、令和4年度に南条中学校との統合が予定されている今庄中学校や河野中学校の大規模改修を含んでいます（両校は、統合により学校施設ではなくなりますが、地域に必要な施設として、一定期間、存続させる必要があります）。

図 長寿命化を実施した場合の維持・更新コスト



2. 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

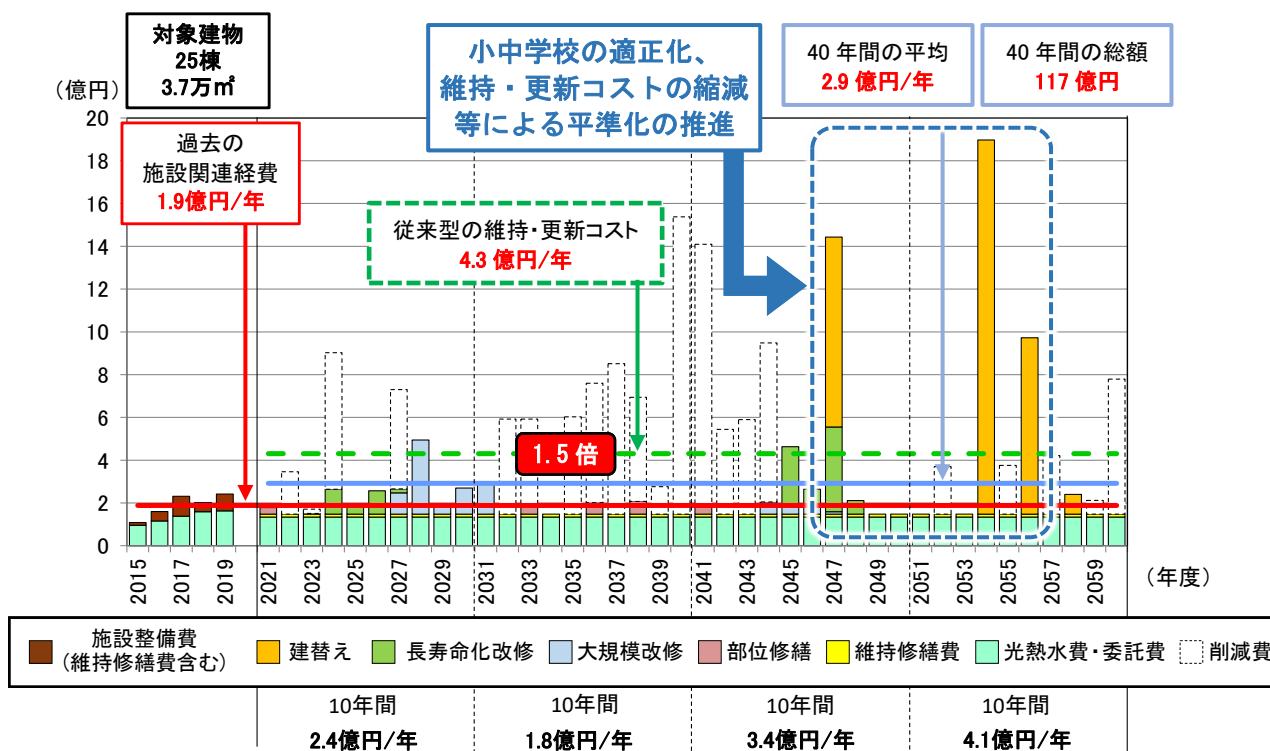
今後の学校施設の維持・更新コストは、施設の長寿命化を推進した場合でも、過去5年間の施設関連経費の約1.5倍に増加すると見込まれています。

令和27年(2045年)頃までは、予防保全型の長寿命化改修を取り入れることで、維持・更新コストを大きく削減することが期待できますが、計画期間の後半には、長寿命化改修後の更新時期を迎える施設が集中し、短期間で莫大なコストが必要なることが見込まれます。

一方、児童生徒数は年々減少しており、今後もその傾向が続くと推計されていることから、学校施設整備の基本的な方針等を踏まえつつ、適正規模の確保や全町的なバランスを考慮した学校施設や通学区域の再編等を検討し、更新コストの削減に努めていくものとします。

また、本町の長期財政見通しとの整合を図る中で、長寿命化等による予防保全型管理を計画的・効率的に実施する他、エコスクール化の推進による光熱水費の抑制等を図ります。このような取り組みを進める中で、今後の学校施設の維持・更新コストの縮減と平準化を図ることとします。

図 長寿命化の効果と課題



第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

1. 情報基盤の整備と活用

「第5章 2. 維持管理の項目・手法等」で整理した内容に基づき、施設の状態や過去の改修・交換履歴、事故・故障の発生状況等をデータベースとして蓄積します。データベースは、建築基準法に基づく12条点検等の法定点検の結果等、継続的な点検・調査の結果に基づいて、適切に更新していくものとします。

2. 推進体制等の整備

本町の公共施設を取り巻く課題に対応していくためには、学校施設だけでなく、全ての公共施設を対象とした総合的な管理が必要です。

このため、南越前町公共施設等総合管理計画の「公共施設等の管理に関する基本的な考え方」に従い、今後、公共施設及びインフラ施設の総合かつ計画的な管理を継続するため、公共施設等総合管理計画の担当課を中心に、情報の一元管理、大規模修繕や建替えにあたっての優先順位の協議、個別の事業計画と全体方針との調整など、庁内の横断的なマネジメントを推進するための体制を構築します。

3. フォローアップ

本計画は、計画期間40年の長期的な計画であり、その間における学校教育や地域を取り巻く様々な環境の変化に対応した実効性のある計画とするため、概ね5年を目途にPDCAサイクルによる定期的な見直しを行うものとします。

また、定期的な見直し以外でも、著しい社会経済情勢や行財政事情等の変化が生じた場合には、随時、計画を見直すものとします。